

日本女子大学社会福祉学科50年史(三)

— 家政学部第三類時代 —

社会福祉学科50年史編纂委員会

はじめに

今回の歴史は、昭和8年(1933)にはじまり、昭和21年(1946)3月におわる。それは、昭和8年度を期して、日本女子大学社会福祉学科は社会事業学部から家政学部第3類へとその名称を変え、13年の歩みののち、21年4月にまた管理学科と名称を変えたから今回は第3類の変更のその理由、経過、当時の教育および学生生活の資料を集録する。

いうまでもないことであるが、昭和8年から、昭和21年迄というのは、戦争の歴史を背後にもつ。国民生活の混乱、窮乏そしてファシズムの嵐のもとで、破局的な敗戦の道を歩んだのが、この時期の舞台である。その間、大正デモクラシー期に花開いた日本の社会事業は、充分にその実を結ぶいとまもなく、厚生事業へと変質してしまった。

しかし、その暗い舞台のなかでの日本女子大学社会事業学部の伝統また教育はどうなっていったのであろうか。家政学部第3類と名称をかえたことは、変質であったのかあるいは学科継続のための譲歩であったのか。より深いまた、暗い舞台のなかでの青春にとって、当時の教育のもつ意味は何であったのだろうか。そして、そこからは、どんな人生がうまれていったのか等々。この稿は、以上の問題意識にささえられ、当時在学した卒業生への調査また教師への聞きとり、提供された資料などによってまとめたものである。ことに前回にひきつづき、資料集として集録したものである。

なお、集録にあたって注意した点は前号にひきつづき、つぎの諸点である。

- (1) 集録した資料は、おもに日本女子大学内のものと、今回家政学部第3類時代の卒業生に対して行った調査から得たものである。印刷の関係上、主要なものだけを掲載した。
- (2) 掲載できない資料は、リストにして示した。
- (3) カナ使いなどは、できうる限り原文に忠実に掲

載した。印刷の関係上、旧漢字を現在使用されているものになおした。

1. 家政学部第3類移行への意図と経過

昭和8年度より、家政学部第3類が発足した。なぜ、社会事業学部が、名称をかえざるをえなかったのだろうか。

『日本女子大学校40年史』には、一応簡単にのべてある。

家政学部第3類 家政学部第3類は昭和8年4月、従来の社会事業学部が改組されて成立したものである。

家政学部の一科として、特に社会意識に目覚めた家庭婦人を養成する事を目的とし、3ヶ年の修業年限中、家庭婦人としての知識教養を習得すると共に、社会学、社会心理、社会衛生等の課目を配当して、社会問題に対しても理解と知識を与えることにつとめている。

更に社会事業家となって、直接に社会の改善進歩に寄与せんことを望む者のためには、本科終了後、1ヶ年間家政学部研究科生として、専門的技術を修得する事になっているが、卒業生の中より、毎年1、2名は中央社会事業協会に於て研鑽をつづけ社会事業に当るものがある。

しかし、なぜということにはふれてない。この点については、いまのところ大阪社会事業連盟の刊行していた『社会事業研究』に依頼され、学科の様子をまとめたものの草稿ではないかと思われる次の資料によって、ある程度わかるのではないかと思う。これは、当時の専任スタッフによって書かれたものではないかと思われる。

三、家政学部第3類と改称す

社会の進運と時代の要求に鑑み、大正10年9月日本女子大学校が社会事業学部を創設してより10余年、我国社会事業の発展は実に目覚ましきものあり、大震災を契期として、或は最近の経済界不況を機会とし、事ある毎に膨張してきた。かくして発達し来た斯界に向って、本学部出身者は年々各種の社会事業の中に進出して行った。そして直接に斯業発展のために貢献し、或は間接に斯業のよき理解者、同情者として尽力した。同時に亦種々様々なる実生活上の体験を得て来た。一方外部の社会事業家よりは、斯業経営管理の

立場から、又は従事員使用の立場から種々なる要求、希望、批評等がもたらされたのである。

(1) 時代の推移と学生の漸減 過去10ヶ年の間、社会の変化にも著しいものがあつた。昭和8年の3・15事件、続いて同4年の4・16事件は左翼運動の画期的発展を示し、これに対する弾圧抗争は愈々熾烈となり、社会人心をして益々焦燥不安の念にからしめた。併して左翼運動や思想問題に対し、世人は極端に神経過敏となつてきた。社会事業学部に対する入学希望者の減少もこの当時からである。勿論、入学希望者の激減は経済的原因も見逃すべからざるものもあるも、他学部の入学応募者に比較してその減退著しく、又社会学部又は社会事業学部を有する男女専門学校又は大学に於て、甚だしきは自然消滅の形となり、或は他の学校に併合委託するの止むなきに至つたものさへあると云う実状である。

(2) 好成績の就職率 斯くして本学部に於ける入学志願者は減退してきたが、一方卒業生の就職率を見るに、之は反対に他学部(国文、英文、家政学部)に比し圧倒的成績を示している。殆んど90パーセント乃至100パーセントの好成績を示しているのである。卒業の際就職希望者が80名ある場合も、或は10名ある場合も、多ければ多く、少なければ少ないままに就職してゆく割合は非常に高率である。しかも本学部出身者が社会事業界に進むのみならず、他学部出身者にして卒業に進出してくる者も相当の數に上つてゐるのである。斯くの如き就職率の状態と、入学希望者の減退とを比較対照して考へる時、大いに意味深き暗示を感得するのである。入学志願者の減退は社会事業の衰退を意味するのではなく、社会事業専門家の需要が減少していることの象徴でもないのである。否益々社会事業は発展の過程にあり、拡大の必要に迫られて居り而して科学的知識と専門的技術とを有し教養ある社会事業家が必要とされてゐる。従つて我社会事業学部は過去を批判し顧みると同時に将来に更生すべく、積極的に飛躍発展の時であることを自覚しなければならぬ。

(3) 問題の学部名称 先づ第一に社会事業学部なる名称のことであるが、果してこれが適当な名称であるかどうか、或は適当な名称であるとしても、社会一般に公平にして正しく認識され得る名称なりや否や、或は危惧不安の念を抱せる恐れなきか、と云うことである。「社会」或は「社会事業」の名をきいて父兄の中には社会主義の養成と混同して考へるが如き浅薄なる解釈をし、若き人々の進まんとする道を拒否し之に反対するが如き事がすこぶる滑稽の如く思われるが事實あるのである。何とか社会事業の真意を理解せしめそれを最もよく表す所の適切妥當なる名称はないであらうか。と云うことが学部更生に當つて非常に重要な問題となつたのである。

(4) 社会技師より社会技手へ 又設立の趣旨にある如く従来の教育方針は社会技師の養成が目的であつた。或部署或施設、或事業に於てそのヘッドたるべき地位に立ち、その統制、指導管理に当る者の養成になつてゐたが、過去10ヶ年の卒業生の活動状態を観察する時、指導的立場に就くよりも寧ろ社会技手即統率者の手足となつて働く場合が多かつたのである。而して亦社会が婦人を迎へること極めて低く、設立当初の目的とは非常な間隔を生じたのである。婦人を待遇すること低きものと同時に、本学部が専門学校なるが為に、自然社会的待遇も大学卒業者のそれとは異り、一局部を分担する社会技手の地位に就くことを余儀なくせらるゝのではあるま

いか。

(5) 実際の技術の必要 又卒業生が社会事業に従事して具体的に社会事業対象を取扱う場合実際の技術、テクニックの不足を痛感したのである。乳児や病人や老人をハンドルし取扱つて行く場合、實際上の知識、技術の力が足りないことを痛感したのである。これは卒業生が実際の活動をなして痛感した体験であり、亦同時に他からの非難ともなつて現われてきた事である。そこに育児法を教へ、看護学を学び、料理法を授くる必要が生じて来たのである。即従来社会事業理論に家政学を加へ理論と実際の両方面から実力をつけねばならぬ。

(6) 3ヶ年制と1ヶ年の研究科 従来4ヶ年制をとつてきたがこれは多少長きに失する嫌なきか。4ヶ年を3ヶ年に短縮充実することは不可能であらうか。近時専門学校にして3ヶ年制により相当の成績を納めている事例が多々ある。

(7) 家政学部第8類 以上各項に於てそれぞれ述べた如く、従来の社会事業学部をそのまま継続するには種々困難なる事情あり、然れども社会が卒業専門家を要求すること切なるものがあるが故に、萬難を排しこの要望に添わんと欲して、茲に従来学部の不備なる点を改め更に一層の改善を加えて3ヶ年制度に改め、特に社会事業家として専門的知識習得の為に1ヶ年の研究科を設置することとし、家政学部第8類と改称して新制度を編成したのである。本科3ヶ年に於て、社会事業の科学研究と家政学の実学研究とを併せ行ひ以て家庭婦人としての教養を得せしめ、家庭の主婦たると共に社会人として社会の福利増進のために貢献し得る実力と人格を有する婦人を養成し、研究科に於て、更に社会事業を専門的に深く研究する者の為に卒業の科学的、学術的、実践的研究を實地に就いてなさせしめ社会事業家としての実力を養成せんとするものである。

こゝに断つておきたいことは、家政学部第8類と云う名称のことである。社会一般人士はこの改称を見て、日本女子大学校は社会事業学部を全然閉鎖してしまつたかの如く思惟せる向もあると思うが、本校としては寧ろ時代の趨勢を洞察して、社会事業学部の発展拡充を企図し家政学部第8類と改称したのであつて、却つて積極的に維持継承せしめる精神である。但し家政学部第8類と云う名称は何等社会事業の特色を表わしていないと云う欠点はあるが、この名称に就いては本校も積極的に支持していると云う訳でなく寧ろ余儀なくせしめられた結果である。学部名称の改正に當つて、苦心慘愴鳩首協議して案を練つたのであるが遂に名案を得ず家政学部第8類とした次第である。従つてこの名称は消極的改良に止つたのである。家政学部第8類と云へば形式的には家政学部に含まれたかの如く見えるが、併し純粹に家政学を研究する同1類と家事科の中等教員無試験検定資格を授与される同等2類とは、その使命、特質を異にしてゐる。本校としては従来の社会事業学部を継承維持する一つの独立した学部として取扱つてゐる。

2. 3類時代のカリキュラムと教授陣

変更時のカリキュラムおよび教授陣はつぎのようである。

1. 必修科目(注. 時計数字は学年、アラビヤ数字は単位数である。)
実践倫理(1・II・III) 井上 秀

哲学(Ⅱ) 川田熊太郎
 心理学(Ⅰ) 高良トミ, 児玉省
 倫理学(Ⅱ) 友枝高彦
 体操(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) ブラント, 高桑ハナ
 恒吉 隆

2. 基礎科目及び主専攻科目

憲法民法(Ⅱ) 2 中村進午
 経済学(Ⅰ) 2 高橋誠一郎
 社会学(Ⅰ) 2 綿貫哲雄
 統計学(Ⅲ) 2 森 敦樹
 社会心理(Ⅱ) 2 桑田芳藏
 社会衛生(Ⅰ) 2 富士川游, 佐藤美実
 日本思想史(Ⅰ) 2 渡辺英一

家政学

衣服研究 齊藤俊吉
 住居研究(Ⅰ) 5 佐藤武夫
 食物研究
 育児看護(Ⅱ) 3 島 信
 経済管理(Ⅲ) 3
 料理(Ⅱ・Ⅲ) 2・2 亘理なみ
 児童研究(Ⅱ・Ⅲ) 2・2 榎崎浅太郎
 社会問題(Ⅱ・Ⅲ) 2・2 綿貫哲雄
 社会事業(Ⅰ) 2 生江孝之
 英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 3・3・3 篠崎茂穂

3. 専攻選択課目

社会事業見学(Ⅱ・Ⅲ) 家田文子
 社会事業実習(Ⅱ・Ⅲ)

4. 自由選択科目

宗教哲学 矢吹慶輝
 哲学史
 教育学
 家庭教育
 美術史
 英語
 其他

5. 副専攻科目及自由選択科目は他学部科目並に下記科目中より選択学修するものとする。

教育学概論, 教育史, 教授法, 児童研究, 哲学概論, 哲学史, 美術史, 宗教学概論, 宗教哲学, 現代哲学思潮, 文学原理論, 言語学概論, 近代文学思潮, 本邦史, 東洋史, 西洋史, 経済学概論, 本邦法制, 社会学概論, 人類学, 代数学, 幾何学, 三角術, 解析幾何, 微分積分, 物理学, 化学, 生物学概論, 生理学, 家庭博物学, 園芸, 裁縫, 礼法, 手芸, 料理,

英語, 独逸語, 仏蘭西語

6. 家政学部第3類研究科(修業年限1年)の学科目
 児童保護事業, 感化事業, 隣保事業, 方面事業, 救療事業, 矯風事業, 社会教化事業, 社会教育, 其他
 なお, 当時の教師で現在も活躍中の諸先生からは特につぎのような話をきくことができた。

☒菅 支那氏談

「(略)当時, 社会事業学部の先生であった正田淑子氏は28回生の受持で軽井沢に一緒に行った。3類になるというので彼女は腹をたてた。彼女はアメリカから帰り, その方(社会事業)の勉強もし苦勞もした。はじめて洋服を着るような人だった。3類になるというので, 今まで4年だったのが8年になった当時は世の中が寛大でなく若い人が社会主義に走ることが多かった。3類だけでなく, 私の世話していた英文科の子がとってもそれになった。いろいろな人がひっぱられた。むしろ英文科だったかもしれない。そういうこともあるし, 社会事業学部はどんどん人数が減るし, 今のトイレットペーパー位のこともかもしれないが, 社会という字がついていたら嫌というわけで, 家政学部にしたらどうだろうというわけ。又4年では長過ぎるということもあって名前を改めた。(略)」

(昭和3年~42年まで在職。前日本女子大学教授昭和18年三類就任当時より主任を歴任。哲学, 社会哲学を担当。現在74才)

☒佐藤美実氏談

「私が入ったのは昭和7年前後であったと思う。社会事業学部時代だった。この学部では大学において日本では最初に「社会衛生学」を藤川游先生が講義しておられた。私は婦人の社会衛生的な研究をしており, また興味もあったので藤川先生の後を引受けた。当時は資本主義の盛んな時代でしたから, 社会主義というに対しては共産主義のような気持を持っていて, なかなかうるさい時代だった。社会衛生学の社会に対してもそうで, 社会事業学部でなくなったのもそのせいだと思ふ。学生も非常に少なく数名いるかないかの時代だった。そこでかねて研究していた婦人の社会医学的な殊に労働医学についての話をし, その他一般欧米諸国, 殊に社会衛生学の発端であるドイツ, オーストリーについて, 「マクシュイツ」という婦人科的労働医学の本を唯一の参考書として講義した。

そのうちに家政3類になった。赤だというわけで,

殊に女の子はそういう赤い思想は困るというので、そこで中庸を保って赤といわれぬように非常に注意しながら被いをしたのですが。家政3類になっても同じ講義をしたのですが……。(略)」

(大正14年~昭和46年まで在職。社会衛生学、社会医学を担当。現在78才)

☒松本武子氏談

「(略)家政学部となり、とにかく衣食住の必修科目をやらなければならなかった。しかも、社会事業学部の必修的な学科は一つも減らされなかった。当時、社会事業学部の卒業生のなかには、3類だというので、別のものだという意識を持った人もあった。今では異分子扱いすることはなくなったけど、社会事業学部では「みどり会」というのをずっとやっていたが、3類の人は入れないでやってらした。専攻学科の先生は1人もお断りしてないけど、2講座あったものを1講座にするということはあった。しかし、3類になっても実習もあったし見学も2年で一年間必ずしたし、3類の1年次では「社会事業研究」という講座があった。今でいえばゼミみたいなものです。あの頃は学部別で一般教養という学科がなかったので、学部別に全く自由にカリキュラムが組めた。ことに私学だから。それで「社会事業研究」を柴木三浦先生がお持ちになった。研究室の指導者で私と二人だけでやっていた。研究室はほんとうに2人だけで守ってきた。3類の学生3学年に社会事業学部の最後の1学年を、指導者の2人だけで責任を持ち、かけもちで指導者会に出席する状態であった。(昭和8年~現在も在職中。英語、ケースワーク等担当。64才)



当時の研究室スタッフ
前列左側菅支那氏
右側 福山修氏
後列左側松本武子氏
右側 家田文子氏

写真提供者 福富恵子氏

3. 学生生活

以上のような教師のとらえた学科の歴史のもとで、学生生活自体はどのように変化していったのであろうか。

前号で掲載した調査用紙を、若干修正し、当時の卒

業生におくり、回収されたものを中心に以下の報告をする。

なお、調査用紙の回収状況は次の通りである。

回収状況

回 生	発 送 数	返 信 数	返 送
33	11	3	
34	12	7	
35	8	4	
36	16	4	
37	10	5	
38	21	9	
39	29	14	
40	41	17	
41	53	26	
42	47	15	1
43	24	9	
	272通	113通	1通

A 家政学部三類入学時について

1. 出身地

県 市 郡 計	県 市 郡 計
北海道	1 1
青森	1 1
福島	2 2
栃木	1 1 2
埼玉	4 2 6
千葉	1 1 1
東京	36 1 37
神奈川	2 1 3
長野	4 1 5
福井	1 1 1
静岡	2 2 4
愛知	2 2 2
三重	1 1 2
大阪	2 2 2
奈良	1 1 1
京都	1 1 1
和歌山	1 1 1
兵庫	4 4 4
鳥取	1 1 1
岡山	4 4 4
広島	2 2 2
山口	4 4 4
香川	2 2 2
徳島	1 1 1
愛媛	2 2 2
福岡	10 1 11
佐賀	2 2 2
熊本	3 3 3
大分	1 1 1
鹿児島	8 8 8
未記入	1 1 1
計	96 16 113

2. 両親の有無

	有	無	計
父	103	10	113
母	97	16	113

両親の職業

職業名	父	母	備 考
	%	%	
自 営 業	36	4	染色凶案, 養鶏, 農業, 旅館業, 医師, 著述業, 販売業, ホテル業, 貸家業, 鈔物業, 木材業
公 務 員	21	1	文部省 教官, 軍人, 校長, 判事, 官吏, 村長
会 社 員	17	0	
会 社 役 員	14	0	
地 主	2	3	
僧 侶	4	0	
大 学 教 授	2	0	
社会事業家	0	1	
保 母	0	1	
無 職	4	90	

3. 入学時の年齢

年齢	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	無記入	計
	16	17	18	19	20	21	24		
人員	14	46	25	15	2	2	2	7	118

4. 入学前は何をしていたか

学 生	90%	このうち3.5%は他学部より転科
仕事をしていた	3.5%	幼稚園保母 社会事業団 銀行員 婦人会事務員
家事手伝い	3.5%	
その他	3.5%	洋裁学校ほか
計	100%	

表により90%は高等女学校の延長として入学したが,中には他の科より転科したもの,他校より移ったものなどが含まれる。

5. 誰が家政学部三類を選んだか

自分で決めた		70%	
すすめた人	父	その他, 先生, 兄, 姉, 祖父, 伯父, 伯母	
	母		
	16%	11%	17%

6. 家政学部三類を選んだ理由

- ・他学部にくらべて修業年限が短い 29
- ・一般教養的な意味 7
- ・父, 姉にすすめられて 4
- ・母が自分に出来なかったことを子に託した 1
- ・文学部に近い内容であったから 8
- ・授業内容に興味がある 25
- ・社会福祉の方面で役立ちたいと思った 15
- ・憲法, 民法, 社会学等知りたい学科が多い 8
- ・世の中を広く学びたいため 12
- ・母がセツルメントを経営していたため 1
- ・進学(旧制帝大)したいと思った 1

・これからの大学でおもしろいのは社会学だと
教えられて 2

- ・家政科では物足りない気がしたので 3
- ・田舎の学校からでは英文科, 国文科は無理 2
- ・男女同権を主張するには, 女性も教養を積み社会的に職業を持つことだと思って 1
- ・青少年の社会教育を一生の仕事としたいと考えて 1

7. 家政学部三類を何によって知ったか

規則書・学校案内	50%
附属高女在学	8
兄・姉	7
桜楓会員	6.2
他学部在学中	5.4
先生(女子大卒)	3.5
友人	3.5
親戚	2.6
読売新聞記事により	2.6
父(女子大教授)・母	1.2
無回答	10

8. 入学に対して家族の意見

	賛成	反対	無回答	計
父	84%	9%	7%	100%
母	85	9	6	100
その他(兄・姉)	15	2	83	100

イ. 父 賛成の理由

- ・本人の意志を尊重 14
- ・修業年限が短い(3年間) 9
- ・家政学部だから 2
- ・社会全般の事が学べる 5
- ・教授陣が立派 1
- ・学校を信頼 3
- ・姉が入ったから 1
- ・独立出来る心構えが必要 4
- ・社会的なものに眼を向けるのは良い 4
- ・教養をつけさせる 2
- ・人の役に立つように 1

父 反対の理由

- ・社会主義運動をするから 2
- ・社会学部と混同し評判を嫌って 1
- ・英文科で続いて修学を望む 1
- ・家事の修業を希望 2
- ・結婚が遅れる 1
- ・女はおとなしく家庭に入ること 1
- ・身体が弱かったため 1

ロ. 母 賛成の理由

- 修業年限が短い 10
- 本人の意志 10
- 高等教育を受けることに賛成 4
- 教養をつけるため 2
- 女子大ならよい 2
- 家政学部だから 2
- 上級生の知人が立派な為 1
- 姉が入っている 1
- 直接社会と関係のある勉強をさせたかった 1
- 母自身結婚のため出来なかった勉強をさせたかった 2
- 止むを得ず賛成 1

母 反対の理由

- 家政科で普通の娘になるのが良い 2
- 女の子一人だったので 1
- 女が社会学を学ぶと赤になる 1
- 洋裁など実技を習わせたい 1
- 具体的な資格や専門性が判然としないう 1
- 女性はそのような勉強をする必要はない 1

ハ. その他 賛成の理由

- 本人の意志を尊重 2
- これからは女でも社会学は必要 8
- 見学や実習により社会的体験が出来る 1
- 学問することは良いことだ 1
- 姉達もそれぞれ自分の道を選んでいて 1
- 姉家政学部中退 1

その他 反対の理由

- 中等学校教師の資格が貰えなくなる 1

B 在学時について

1. 学校内の生活において

イ. 良かったこと

- 良き先生, 優秀な友人, 個性的な友を得たこと 25
- 立派な講義が聞けた 12
- 選択科目が多く, 自分が望めばいろいろの教課が学べたこと 4
- 見学, 実習などで色々な社会事業施設を知ったこと 5
- クラスの人員が少く, まとまりやすかった 7
- 三類は地味で実質的, 自由な雰囲気があった 4
- 寮舎生活で得たものが大きい 10
- 軽井沢の生活は印象的だった 8
- 自由というものをはじめて知った 7

- 当時他校に社会福祉関係の学部, 学科が少なかったので誇りをもつ 1
- 決心会, 決闘会などでよく内省する習慣がついた 9
- 戦時下でありながら内省的な考え方を学んだこと 2
- 卒業してから社会とか政治に関心を持つようになったこと 1
- 自信を持ったこと 1
- 未知の学問を学び得たこと 1
- 尊敬出来る先生に出合ったこと 2
- 自主的に自分の人世を考えるようになった 1
- 外国の友を得たこと 1

ロ. 後悔したこと

- もっと勉強しておけばよかった 17
- 授業内容が中途半端で不徹底 4
- 家政科のパートが大きく, 社会科の時間も思ったより面白くなかった 1
- 家政科の科目が余りなく物足りなかった 1
- 語学力の不足と基礎的学力の不足 2
- 技術を身につけておきたかった 1
- 何も資格が得られなかった 2
- 戦時体制下で防火訓練などに多く時間をとられた 1
- 戦争中の為線上げ卒業, その他集中して勉強出来なかったこと 3
- もっと積極的であればよかった 2
- 社会事業の勉強が肌に合わないことを覚ったとき 2
- 論文をまとめなかったこと 1
- 勉強出来る時代であればよかった 1

ハ. 残念だったこと

- 家政学部と社会事業学部とが半々で中途半端なのが残念であった 5
- 休講が多かったこと 1
- 尊敬していた栄木先生が断食で亡くなられたこと 1
- 戦争で勉強出来なかったこと 10
- 半年線上げ卒業になったこと 15
- 8年間は短かった, もっと勉強したかった 5
- 永井先生の講義が突然中止になった 2
- 戦争中でも真剣に学問に対すべきだった 6
- 行動, 思想の自由が奪われた 8
- 三類だけ三年間の差別を受けたこと 8
- 施設の現状を知り, 就職に対する熱意がなくなった 1
- すべてのことで力がなかったこと 1
- 寮生と通学生との間の交流があまりなかったこと 1

- 本格的に社会事業を学んで働こうという学生があまりに少なく、社会科学の基礎などともに勉強出来なかった 2
- 戦争によって異国の友の便りが途絶えたこと 1
 - ニ. いやだったこと
- 家政学部という名をもちながら学部の立場が非常に不鮮明だったこと 7
- 防火, 防空, 軍事訓練 6
- 勤労働員で工場に行ったこと 2
- 三類に対し学内でも異分子扱いされているようでした 7
- リーダーの偏見が強い 2
- 寮生活の人間関係の一部 1
- 家政科と間違えた人が多く, 社会事業学部の意識少ない 3
- 切角社会科を選んだのに家政科の科目があったこと, クラスメートの問題意識が自分と全く違い一人孤立していたこと 2
- クラス会で発表すること 2
- 発言しなければならない時, 考えることは多くとも発表力が大変乏しかったのでおそろしくさえ感じた 1
- 2年生のはじめ頃就学の目標に疑問を感じ, どうするべきかと悩んだこと 1
- 封建的で学生に自由がなかった 1
- 校舎がボロボロで冬寒かった 2
- 入学式の時, 親戚に卒業生はいるかと聞かれて嫌だった 1
- 入学時地方女学校4年の為, 東京5年の方達にすべて遅れている様で辛かった 1
- すべて期待はずれだった 1

- 2. 当時の社会状態で印象に残ったこと
- 二類の32回生が思想犯ということで検挙が多く, 学校内へ警官が入ったとか, 身の廻りであわただしい動きがみられた 2
- 卒業前に昭和11年2.26事件が起きたこと 12
- 大学を卒業しても就職口がない不況時代だった 5
- 昭和12年に日支事変が起り, 兄も応召されたので寮で慰問袋を作ってくれた 1
- 全体主義への転換 1
- 軍国主義にぬりつぶされ, 社会福祉事業が全然表に出なかったこと 1
- 第二次世界大戦に突入しかかった時代でしたの
- で, 戦争の悲惨さ, むごさ, みじめさをひしひしと感じました 1
- 戦争に進んで行く過程であった為, いろいろと制約を受け出した 1
- 日満親善などと云うことが云われておりクラスに満州の方がおられ, クラスの先生が日満親善は私達の手からと云われたことが強く印象に残っている 1
- 日に日に社会の動きが嫌悪となり不安でした 1
- 日独防共協定が結ばれ井上校長が訪独から帰られて講壇上でハイル, ヒットラーと右手を上げている敬礼を繰り返された, 何とも心にそまぬ思をした 1
- 深川方面に実習で行くとルンペンが大勢居ました 1
- 近衛内閣の頃で社会政策の永井先生が新聞は裏を読めと云われ, 学生が軍部におどられるようになったら, もう日本は負ける。と云っておられたがその後3年足らずで敗戦を迎えたこと 1
- 教科の中で思想的な抑圧により聞かれなくなった課目のあったこと 1
- 日に日に品物は店先きからなくなり, 外食券食堂の雑炊にも長い行列が出来る様な, 個人々々の生活も次第にきびしく乏しいものになっていた 1
- 同時代の男子学徒が動員され戦場に行ったこと 1
- 防空訓練のすさまじさ 1
- 戦時色一色 1
- 日本での第一回の東京空襲があったこと 1
- 学徒動員で働いたこと 1
- 綿貫先生, 永井先生のお講義, 学友と立教大学に三木清の話を聞きに行ったこと 1
- 在学中後半は殆ど勤労奉仕に明け暮れた 1
- 入学後8カ月で日米戦争開始, 3年生5月に第一回東京空襲で敵機を見る。戦時体制強化され, 軍事教練, 凸版工場へ勤労奉仕, 食糧事情が日に日に悪化し, 寮生活では何時もひもじい思いをしました 1
- とも角戦争のことで皆が生きて行く為一杯でした。一寸でも反戦的なことばを吐けば非国民呼ばわりをされました。しかし張りつめた生活態度を続け得たことは良かったことだと思います 1
- 学徒出陣, 同じ学生として学業半ばにして戦地に行く彼等の無念さを痛いほど感じました 1

- 戦争、工場に通ったことは一種の実習のように感じられ、その雰囲気は嫌であったが考えさせられることも多かった 1
- 戦争末期の様相のすべて、昭和17年から昭和19年、激動の日本をぢかに感じた 1
- とくに明治神宮外苑での学徒出陣壮行会 1
- ただならぬ時の動きを感じていた 1
- 動員で飛行機の部品を検査するところにおりましたが、こんな状態では勝てないことを軍人を父にもつ人から聞いていた 1



写真提供者 志磨陽子 氏



凸版印刷工場でお礼、債券の検査等の勤労奉仕をした。
昭和17年 写真提供者 志磨陽子 氏

- 社会状況に純粋であった先生ほど学生に人気がある反面、社会的にはお気の毒であった 1
- ストッキングをつぎはぎして履く、靴も8年頃には無くなった 1
- 甘い物の不足、絹の靴下など求めるのに困った 1
- パーマをかけると叱られるので、校門を出るまで結えておく 1
- 「スフ」と云う名の紺サージの標準服、すぐ上の級までは自由で紫の式服を着て羨ましかった 1
- 物資の欠乏、当時の国民は連帯感があった、現在の感情とは大分違う 1
- 勤労働員 2
- ポンプ班で校内をかけめぐった、奉仕活動に一生懸命 1
- 軍人（殊に陸軍）が威張った 1
- 講堂の講話で海軍士官が「国家存亡の時、安閑と学問しているときでない」といわれ多くの退学者が出た 1
- 英語の使用禁止、言論の自由失われる 1
- 戦局は日に日に悪く、長兄の戦死、次兄の召集、終戦後は不在地主のため土地解放、収入がなくなり不安になった 1
- 12月8日、日米開戦真珠湾攻撃 12
- 卒業がはじめて繰上げ12月27日卒業 1
- 卒業試験の日に日米開戦になった 3
- 学徒出陣 8
- 太平洋戦争に入る前で、社会学の講義内容も全体主義理論に統一、それ以前の社会観をくつがえす様に見事に一変していった 1
- 立入った内容をさけるようになった 1
- 思想、学問の自由が侵害され、出版物も伏字あり、社会主義的表題の著書を手にはしているだけで官憲が目を光らした、学校でも東条英機夫人を登壇させるなど、軍国主義を導入していった 1
- プロレタリア作家の検挙、思想の弾圧が行われるようになった。一方ファシズムの色彩が濃くなる 1
- 贅沢は敵と云われたが父の職業（ちりめん加工業）を考え憂うつな娘時代を送った 1
- 紀元2600年の祭典 5
- 在学中に太平洋戦争に突入、戦争の悲惨さ印象強い 18
- 東京空襲 1
- 防空、防火訓練をよくやった 1
- 永井先生の退職 1



戦争が始まり、勤労奉仕が多くなり、モンペ姿で活躍した。
写真提供者 志磨陽子 氏



昭和17年
写真提供者 海林薫子 氏

- ・敗戦 2
- ・終戦後の民主的变化 1
- ・戦争と平和 1

3. 学生時代の宗教観

- ・別に決まった信仰は持たなかった 21
- ・当時は無 10
- ・キリスト教に関心あるが信者ではない 10
- ・既成宗教にこだわらず心のよりどころとするものを自分の中に持っておればよい 6
- ・仏教 6
- ・家は真宗、学内ではキリスト教的行事多い、寮では讚美歌の伴奏をする、戦時下混乱期心の支えとなった 4
- ・寮の讚美歌、瞑想が後の宗教観に多大の影響 8
- ・最後に軽井沢で受けた仏教禅宗の教えは感銘深い 8
- ・2年の時宗教論文を書かされたが、若いなりにいろいろ考えたことは良かった 4
- ・キリスト教であったが実倫の影響で懐疑的になった 1
- ・信仰論文は貴重、宗教哲学史は印象に残るすばらしい授業であった 2
- ・実倫で渡辺先生から宗教の講義を受けたが自分では漫然としていた 1
- ・戦争中で何か絶対的なものを求めていた 2
- ・空襲で何時命がなくなるか危険にさらされ実倫も葉隠れ武士道の講義も身近かなものにした 1
- ・実倫で耳にした婦一の言葉が印象深く残る 1
- ・聖公会系のミッションスクールで5年間教育を受け、女子大で婦一の教え、東先生の宇宙観を教えられ大きく目が開けたような気がした 1
- ・生まれ育った環境もあって、ごく自然にキリスト教的なものをもって何にも抵抗を感じない程度のものでした 1
- ・学生時代は教えられても真実に感じなかった、このごろ始めて見つめるようになりました 1

- ・はっきりわかりませんでした 8
- ・混沌としていたが愛の尊さは一番納得出来ました（綿貫・東先生の影響大） 1
- ・家庭のキリスト教をそのまま信じた 3
- ・母の宗教観を通してのみ、人間は不幸に過い精神的苦痛のひどい時しか、なかなか宗教の門は叩けないと思っている 1
- ・キリスト教への理解を得たいと思った 1
- ・混んとしていて、いろいろな宗教の説話（キリスト教、神道、仏教など）を機会ある毎に聞いていた 1
- ・如何なる宗派も超えて信仰を持つと云うことの意義を考え通した 1
- ・特定の宗教はありませんでしたが、実践倫理、内村鑑三、倉田百蔵等々、その他の書物により宗教らしいものを身につけました 1
- ・既成宗教を信仰していなかった 3
- ・戦時体制化のモラル以外は考えられなかった
- ・天皇より他になし
- ・無回答 20

4. 印象に残った講義

社会学	（綿貫哲雄）	76	（社会哲学 社会事業 2
社会事業	（生江孝之）	88	
経済学原論	（高橋誠一郎）	28	
家族問題	（戸田貞三）	16	
社会政策	（永井 亨）	17	（社会思想史 2
社会衛生学	（佐藤美実）	12	
社会政策	（戸田貞三）		社会学
労働法制	（鮎沢 巖）		労働問題
ケース・ワーク	（家田文子）	8	
社会見学	（家田文子）		
哲学	（川田熊太郎）	10	
異常児	（小態虎之助）	15	
労働医学	（俣峻義等）		
統計学	（森 数樹）	3	
社会学	（林 恵海）		
心理学	（高良とみ）	2	
児童心理学	（高良とみ）		
社会心理学	（桑田芳蔵）		
心理学	（児玉 省）	8	
宗教	（宇野円空）	8	
宗教哲学	（岸本英夫）	5	
美学	（村田良策）	1	

美学	(今和次郎)	2
美術史	(高橋誠一郎)	1
農村問題	(佐藤寛治)	1
農村問題	(東畑精一)	1
フランス料理	(東佐蒼子)	6
実践倫理	(井上秀子)	4
英語	(家田文子・野々宮)	
哲学	(菅支部)	4
文芸思潮	(茅野爾々)	1
国語	(上村悦子)	
体操	(高桑ハナ・ミス・ブレンド)	
仏語	(田島 清)	
無回答		12

5. 実習について

実 習 先	期 間
二葉園	1 半年ずつ
明石町市民館	1 半年ずつ
大塚方面館及附帯事業所	1 3ヵ月か6ヵ月
深川セツツメント(奥先生)	1 1年6ヵ月位
保育園	2 春休みの間
東大脳研究所	1 3ヵ月
興望館セツツメント	1 6ヵ月
日暮里セツツメント	5 月1回奉仕
職業紹介所少年係	2 6ヵ月
桜楓会託児所	4 夏休中、林間保育、他随時、 1年間2、週1回1
工場	1 1ヵ月位
西生田季節保育所	4 夏休み
柿生の農繁期保育園	1~2日交代で
凸版印刷(勤労奉仕)	10日間
生活保護世帯の訪問	クラスの大半が卒論テーマとした
蒲田製作所(勤労奉仕)	2 6ヵ月位
子供の家(収容施設)	2
保育所	4 夏休み2週間 、1週間
川崎細山部落共同炊事	1
セツツメントでの保育	1 夏休み7~10日位
白十字会林間学校	1
精神病院	1 1日位
農村託児所	1
板橋養育院	2
荻山実務学校	2 夏期2週間
東京芝浦電気	1
無回答	68

実習は教科外活動として任意に行なわれたようで、期間も各人によりまちまちであるが、印象にみられるようにその得たものは大きかったようだ。

- ハ. 印象的だったこと
- 保母が幼い子どもの気持ちを大切に、心から温い気持ちで接していたこと
 - 子どもが一日なついて可愛かったが母親の迎えがあると、さっと母親にかえる姿
 - 親切に世話をすると子どもがなついてくれるので感激した
 - 幼児教育のむずかしさ
 - 下町の貧しい人々の生活状態
 - 肉親を離れた小学生の明るい生活
 - 母子家庭又は生活の為母親が働いている家庭の子どもばかりで母親の愛情にうえていた、保母の数、重労働、給料も少く大変と思った
 - 床が何時もザラザラしていた。おやつのおにぎりの中に黒豆が入っていた
 - 住宅がせまく不衛生であった
 - 貧しい人を救うことは難しいこと
 - 失敗だらけの出来ごとばかり
 - 生活環境が全く違い驚きだった
 - 農村生活の合理的なあり方について、特に食生活の面で実に良い体験でした
 - 出来上がった御飯と副食物を農家に届けて喜ばれた時、うれしかった
 - 農村料理で沢山作った為疲れて大変だった
 - 私達の力で充分喜んで貰えた
 - 当時の女工の労働条件の悪さは哀れでした
 - 従業員の真剣な態度
 - 施設で献身的に奉仕しておられる方々の姿

ニ. 困ったこと

- 沢山ありすぎて書けません
- 貧民窟の生活がひどく実習が一人だったので手の下し様もなかった
- 食糧不足で子どものおやつ作りに苦労した
- 食糧不足で子どもが台所のゴミの中からカボチャの種を拾って食べていた
- 荻山実務学校で入浴中時計を失くしたが、子ども達を傷つけることを恐れて云えずに帰った
- オルガンを弾かされたこと
- 自分自身の不勉強と不安定な気持ち
- 子どもがませていた
- (ノミ)が多く安眠出来ず、カイセンをうつされた
- 教官の家族が意外に環境を意識せず生活していること

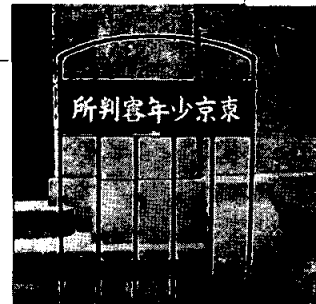
・東京養育院分院で保母から一日中グチを聞かされ施設のきびしい現実にショックを受ける

- ・「みせものでない」と怒りの言葉を浴びせた吉原の遊女達の姿
- ・精神障害者、老人ホームをみて胸が痛んだ
- ・公共託児所の不備
- ・施設従事者の献身的な態度を見て感動した
- ・日本人経営の託児所はその人自身仕事に没入して自身の生活そのものの感じであるのに対し、外人経営の場合、仕事と生活が切離されて余裕が感じられ、日本人がひどくみじめに感じられたことを思い出す
- ・現在でも、あの頃見学が出来てよかったと思っています
- ・何処の見学に行っても、すべて自分の知識の浅いのを思い知らされた
- ・里子の村や家庭を訪問したことから「それでいいのか」という疑問をもった
- ・養老院の汚なかったこと
- ・設備の良い所、悪い所と対照的なものをみた
- ・精神病院の臨床実験

6. 見学について

1. 見学先

栃木女子服役所	根岸精神病院
警視庁	養育院
愛恵園	クルッペルハイム
多摩少年院	松風園(有料老人ホーム)
浴風園	授産場
松沢精神病院	双葉園(保育園)
紡績工場	矯風会
製菓会社	滝野川学園
本所駄菓子店	光明学校
日暮里桜楓会託児所	公益質屋
都内の託児所	隣保館
聖路加病院	母子寮
板橋区の養護施設	少年保護観察所
吉原、亀戸の売娼窟	同潤会アパート
盲、聾、啞学校	中野療養所
水上生活者の託児所及学校	猿江善隣館
啓成社(義手、義足製作)	築地産院
興望館	少年審判所
済生会病院	白洋舎
日立鉱山	緑町の宿屋住居
愛育会	福田会(里子の村)
愛光学園	江東橋方面館
賛育会	清瀬療養所
脳病院	労働科学研究所



施設見学 東京少年審判所
写真提供者 池田きみ枝氏

ロ. 期間

34, 35, 38 回生は 3 年次に 1 年間毎週 1 回実施
37, 41 回生は 3 年次の前期に 1 週 1 回実施, その他の回生は不明

ハ. 印象的だったこと

- ・多感な青春時代に施設の見学は心に強くやきついている
- ・世の中の底辺を見たこと
- ・愛憎に飢えた子ども達に始めて接したこと
- ・見学はどれも総体的に私たちの視野を広めるのに役立った
- ・女囚刑務所でお産をした女囚のこと
- ・不幸な境遇にある人々に対する認識

当時の施設見学ノート(福富恵子氏所有)を次に掲げておく。

興望館セツツルメント
場所 向島区寺島町 4-80
事業内容隣保事業

感想

婦人矯風会で行っている仕事であるが、もと～外人の手によ

て始められたものであろう。その仕事は何処でもやってみる事で殊更新しいものも感じないが、ただ建物を見た瞬間から、「あっキリスト教関係のものだな」と感じた程さう云ふふん困気の濃厚な施設である。キリスト教のものが良い悪いの問題ではないが、ただ此処の施設が外人が居なくなって、日本人が経営する様になると何か妙



興望館セツルメント 前列右端 吉見静江氏
写真提供者 嶋長澄子氏

になって来ると云ふ何処でも一時見られた現象を呈してある事を感じた。外國的のものから日本的のものへと、その良し悪しは別として、移る過渡期ではないかと思はれる。私が外人経営の学校に居て、その過渡期をよく経験したので、これからこのセツルメントがどう変わって行くか、その責任を負ふ方の御苦労は大変なものだらうと蔭ながら御同情申し上げたのである。これからの時代に生きて行くには、とてもこのままでは駄目な事は分り切つてゐるのである。「何もかも新しく変わって行かねばなりません。このセツルメントの性格もこれから大いに変わって行くでせう。」とのお話、戦時下日本の国民生活をたかめる為の立派な施設になってほしいと思います。

(18・4・28)

7. 卒業論文について

イ. 論文のテーマ(註)

第33回生論文(昭和11年1月)

主として東京府職業紹介所を中心とし

て見たる女子職業に就いて
 隣保事業に於ける社会教化
 治療事業の一端を觀る
 貧困学童の保護及其教育状態について
 幼稚園教育の研究
 満洲国社会教育振興案
 近代婦人の結婚に対する考察
 東京に於ける母子ホーム生活者の調査
 (共同論文)
 児童保護の一斑に就いて
 少女のグループ指導
 農村娯楽問題の研究
 農村教育とその対策

児玉富美枝
 佐藤弥寿子
 鈴木あい子
 坂内ふじの
 萬田 昭子
 馬鳴 鶴
 町田 咲子
 柳父美寿子
 吉川 澄江
 李 恩 華
 中村 京子
 今泉ゆきゑ
 青木 珠子

第34回生論文(昭和12年1月)

農村に於ける生産年令人口の職業受容

に關する農村問題調査研究

部落民に就いて

児童の音楽教育

本邦カトリックカリタス事業展望

美倉概説

児童校外教育について

不良少年と少女の相違

育乳児について

日本村塾教育小論

児童の情操教育

児童保護について

寄宿舎と青年の教育

向島区に於ける乳児死亡

乳児の保護について

婚姻年齢並に婚姻年齢差の研究

幼児の性格の発達と教育

農村青年教育の一考察

新聞の社会的機能及び其の対策

少年少女と読物

台湾に於ける乳幼児愛護運動の特殊性

第35回生論文(昭和13年1月)

要保護世帯に於ける乳幼児死亡原因調

査並に家計調査(共同論文)

広田 とし・本吉ますみ・浜口富美子

松井多美子・野上 政子

一女子アパートに於ける職業婦人の調

査報告

農村児童の学級経営の実際につきて

満洲国公衆衛生に就いて

児童校外教育

細民地区に於ける学校給食並に栄養問題について

不良少年に就いて

第36回生論文(昭和14年1月)

農村人口移動実地調査

児童の宗教意識に就いての一考察

児童教育に就いて

児童読書生活の一調査

社会教育

浅岡志づゑ

井出 む津

内山 操子

大橋みち子

曲 淑珍

全 安 恕

末 吉 政

周 淑 身

田宮 愛子

寺倉ゆきの

武仲 梅

宮武あやめ

山田 千代

劉 淑芬

鷲尾 千菊

山本 薫

今泉とみ子

藤原 栄子

相沢 君子

郭氏 玉宣

梅田 美代

高良 裕子

片岡 三保

完田 都

鞠 英 華

黄 薔 薇

張 春 茹

林 湘 環

有坂 孝

飯村 節子

岡田 園子

小野 久子

崔 蘊 英

関 弥江子

対木 美江

石 如壘

労働力の福養と労働時間	高田 定子	支那勞工施設	閻 慧芳
乳児保護問題	張 淑貞	同	博 丕容
百貨店女子従業員に就いての研究	藤岡さやか	青少年労働者の娯楽について	甲斐美代子
現下少年選職上より見たる職業指導の考察	山本 絢子	同	丹羽満喜子
児童の家庭教育	林 採瑾	託 児	黄 珪 貞
朝鮮社会事業の大略と貧児教育方針	李 鳳 愛	感情意志の方面より観たる生来性異常に就いて	植田富美子
道德意識の発達に関する二三の調査	官館 はる	朝鮮の民間信仰	高 篤 彦
図画教育の実際	石川 春江	社会事業史上の女性を中心としたる各時代の女性観	崔 英 純
江戸時代の裁判制度	蔵内登代子	台湾女性	田中 弥生
女子勤務余暇生活についての調査研究	三藤 藤子	戦争と不良少年	山崎三とり
社会研究人間研究における児童研究の意義	村上ちさゑ	支那女性生活史	涂 玉英
農村調査(西生田移転地にて)	浅海 静香	同	古川 邦子
日本に於ける医療社会事業	坂内 貞子・田中 ちか	満洲の諸民族及びその生活	大和 良子
第 37 回生論文(昭和15年1月)	安部 静	児童生活における社会性に就いて	渡辺 百
社会事業学部十五年史	阿部トシ子	有配偶女子労務者の社会婦人	増 鐘 紀
現下の社会状勢より見たる結核に就きて(共同論文)	池内 道子	科学的調査	阮 守 蘭
母子保護問題について	福島 敦子	郷土の自殺問題	橋田美栄子
戦時下に於ける日立鉱山女子労働者の状態	真鍋 芳子	台湾の風俗習慣	小宮山睦子
戦時下における女子労働者の生活実態調査(共同論文)	池田 君枝	第 39 回生論文(昭和16年11月)	清水ミチ子
内藤 黎・長谷川澄子	北川 清子	少年教護院収容児童に関する調査	大西 節子
乳幼児保健の立場より見たる酒精問題	黒木 愛子	(共同論文)	李 珊 珊
女子教育	城島 文子	数田 明子・木下 明子・岸 美代子	大森 啓世
少年保護 (共同論文)	中馬 千里	源馬瑠璃子・日下部満里子・小今井慶子	大西 文子
満洲国に於ける社会事業について	都 子 芳	近藤美佐子・下城 方江・高瀬 悦子	
世界大戦当時の乳児保護問題	舟木美江子	高田貴美子	
満洲国に於ける家庭教育について	王 彩雲	女子労務者の社会婦人科学的調査(共同論文)	
農村に於ける娯楽行事慣習について	馮 蓉 芬	阿閉 恒子・井上 広子・石川 清子	
第 38 回生論文(昭和16年1月)	古内八十子	岡本マサ子・小田島俊子・門永 鳩子	
婦人問題 (共同論文)	梁 国 英	岸本登美子・坂田 順子・下川 滋香	
聖徳太子の社会事業に就いて	長田エイ子	竹中 いま・松田 エミ・横山 綾子	
本邦初期に於ける仏教社会事業の一考察	相川富久子	女子ホームに関する調査(共同論文)	
軍事援護事業制度	藤林 敬子	江川 賀子・遠藤 美子・大野 洋子	
同	天山田静子	園田美代子・千田 秀子・榎本ナナ子	
二宮尊徳の桜町復興事業に就いて	猪狩 和子	南 チョ・藤原 俊子	
	亙理 春子	第 40 回生論文(昭和17年9月)	
	石田 菅子	労務婦人の妊娠及び乳幼児死亡に関する調査	牛島 清子
	北山重志子	白井千代子・田島 正子・増田日出子	北室 澄子
	岩淵喜美代	労務婦人の衛生に関する一調査	奥田 俊子
		下元 春日・加納 順・高垣恵美子	
		我国に於ける学童及び青少年	稲葉 徳子

生徒の結核について	今泉 洋子	ロ. 共同者			
我国結核の現状とその対策	水落 洋子	あり	44%	なし	22%
	平井千恵子	無回答			34%
戦争と母子の健康問題	西田富美子	回生によっては卒論なしの時もあった。			
高橋 和子・井上 礼子・綿貫 淑子		ハ. 指導教授			
年中行事の一考察	生田 和子	特定の指導者なし	11	生江孝之	6
	原田 幸子・藤本ナミ子	佐藤美実	14	林 恵海	6
児童の教育と環境	渡辺美枝子	暉峻義等	8	戸田貞三	8
少年の悪行と我国教護事業発達の大観	倉林佐久子	小熊虎之助	8	松本武子	2
漢代家族型態の考察	石野 美知	福岡文子	2	菅 支那	1
不良少年と愛の問題	黄 金 玉	栄木三浦	1	綿貫	1
同	渡辺美智子	鮎沢 巖	1	花山信勝	1
不良少年と環境	吉川スミ子	ニ. どのようなことに苦勞なさいましたか			
学校と結核予防	木村 衣枝	・ 個人面接を何人かしたと思うが、面接技術のむつかしさと非力が残念			
本邦職業紹介の変遷	忍頂寺和子	・ 相手と打ちとけて正直に話してもらうことに苦心した			
	島田 照子	・ 一応各家庭を訪問調査したが母子問題の本質にふれるところまでいかなかった			
高知片倉製絲紡織株式会社	城島 敏子	・ 若い学生が母子寮収容者と話合って、内容をどれ程つかみ得たか自信なし			
産業報国会の組織及び内容について	西山 精子	・ 母子ホームに居る者は昼夜動いているのでホームに行っても仲々面会出来ず時間的に面会するのがむづかしいので苦勞した			
満洲の信仰	平瀬 芳子	・ どのような点をどのようにまとめるかについて			
盗癖を中心とした不良少年の調査	池上 幹子	・ アンケートの整理後のまとめと云うか、その回答の読みのむづかしさ			
	前島 温代	・ 生江先生宅に度々伺い指導をうけた			
	前田萬里子	・ 著書によって関心があって学外の先生にお世話になりました、語学力が不足で苦勞しましたがテーマだけは一生を動かされそうです			
農村労働移動より見たる農村婦人	山本美恵子	・ 資料集めに困った			
	吉見 純子	・ 勉強不足のためほとんど閉口しました			
農村に於ける二・三の保健問題について	関 かをり	・ 当時は指導教授もなく、戦争中ではあり婦人運動の現状を歴史的に位置づけて理解することが出来なかった			
	土田 俊美	・ 参考書の撰択と資料集め			
戦没者未亡人諸問題	高橋 文子	・ 統計で内容が今の世の中と違い、働く婦人の生理のことであり私達が若くもあったので大変でした			
	吉川知恵子	・ 当時戦争が次第にはげしくなり、未亡人、孤親、孤児そして戦傷兵が巷に増加して行き、社会福祉はそこから手をつけるべきだと思ひ友をさそった			
日本人口史考察		・ 夏休みを利用し福島県の農家を一軒ずつ尋ね歩いてまとめた			
(徳川時代までの人口史考察)	尾佐竹久邇子	・ 役場の協力を得て、各家庭を訪問して体験および			
世界外交の真相	山沖千鶴子				
職業婦人の説書に就いて	関口 駿子				
	田中 淑枝				
	山口栄津子				
第41回生論文(昭和18年9月)					
社会的見地より見たる農村母子の問題	浅野 妙子				
(共同論文)	大矢久美子				
	柏木 光枝・紀野 陽子・桑尾喜美子				
	佐治 秀子・柴田 俊子・鳴海須磨子				
	馬目 輝子				
(註) 資料「社会事業学部卒業論文目録」					

ーターを集めたことは忘れられない

- ・東北の農村で調査を行ったが隣が遠くて閉口した
- ・農村を歩いて無様な質問をして嫌な顔をされたこと
- ・小さい村のことで統計数字が僅少のため村の性格、問題点を出すのになかなか難しかった
- ・調査用紙の作成、調査者の依頼と回収、集計が一番困難だった
- ・個人で実習に参加の為、実習先の調査期間と学校の授業との操作がむづかしかった

(徴用工問題)

- ・前年の調査表を引きついでなので苦労は余りなかった
- ・突然の卒業線上げで十分な研究時間なし
- ・10人以上で全国的に教護院のアンケート調査を行ったが、きめの荒いものとなった
- ・空腹でも毎日マーケットに行き調査した
- ・失業者、浮浪者、復員者のひしめく閩市は荒々しく出身地を聞くのも怒鳴られそうで身のすくむ思いがした
- ・戦後交通機関もない貧民街を訪ね歩いて不安だったり疲れたりしたこと
- ・毎週日曜に出かけ、夜勤をしている女工さんの生活状態の調査を行った
- ・熊本 of 農村に泊り込み、保健所などにも調査にゆく
- ・当時戦時下であり秘密外交で真実が知らされず主として外国文献に頼った。日本の政情に不安と憤りを感じた
- ・工場での実地調査は充分でなかった

8. 研究会活動をなさいましたか

イ. 学内

研究会に入っていた	10%
" 入っていない	44%
無回答	46%

研究会名

色々あったように思うが忘れしました

情操教育について

宗教について

バイブル研究・信仰の対象として

哲学グループ(菅先生)

善の研究輪読会

社会学ゼミナール(綿貫先生)

戦時下文化研究会

指入形
紙芝居 } 創作・実演・研究発表
童話

ロ. 学外

研究会に入っていた	3%
" 入っていない	39%
無回答	58%

研究会名

勤労婦人の問題(個人として参加)

工場における女子労働者の生活実態調査

東大・哲学会

世論調査研究所

9. 当時の愛読書

聖書

歎異抄

人世読本

いかに生くべきか

キリストのまねび

人世論(亀井勝一郎)

人世論(岡本かのこ)

仏教読本(岡本かのこ)

人世論(武者小路実篤)

西田哲学(三木清)

哲学以前

三太郎の日記

愛と認識との出発

善の研究

出家とその弟子

カントの哲学

冥想録(パスカル)

正法眼蔵(道元)

エミール(ルソー)

ツラトウストラ

(ニーチェ)

死に至る病

(ケルケゴール)

随想録(モンテーニュ)

心理学関係書

問題の親(A.S.ニール)

造形美論(高村光太郎)

社会問題講座

世界文化史概論

(ウエルズ)

社会政策(河合栄次郎)

学生と生活他(河合栄次郎)

学生シリーズ(編)

学問のすすめ

学生に与うる書(天野貞祐)

安部能成の評論

宮沢俊義

小泉信三

高橋誠一郎の随筆

葉隠

女工哀史

婦人論(ペーベル)

キュリー夫人伝

児童文学全集

日本文学全集

世界文学全集

明治・大正文学全集

蟹工船

放浪記

女の一生(山本有三)

女の一生(モーパッサン)

にごりえ

たけくらべ

天の夕顔

夜明け前

生活の探究

冬の宿

若い人

いのちの初夜

源氏物語

東方の門

郷愁記(杉正俊)

民話

薔薇は生きている

秋愁記	友情論(アベル・ボナール)	上級生に色々なことを教えられて	1
巴里に死す	偽善者(モリエール)	性格が正反対だったため	1
智恵子抄	車輪の下(ヘッセ)	社会事業を志した親しい友人は一学期で死亡し、その	
親愛上人	武器よさらば(ヘミングウェイ)	他は特になし	1
恋と結婚	大地(パールバック)	尊敬に価する友と見込んだ友と今日も変わらず	1
萬葉集	チボー家の人々	卒業後晩婚がきっかけ	1
旅愁	ゲーテの詩集	なんとなく	3
パリ通信	バイロンの詩集	ロ. 現在でも交際しているかどうか	
阿部知二	親和力(ゲーテ)	a. 時々あう	66
川端康成	シュヴピア	b. 文通	37
中川与一	風と共に去りぬ	c. 年賀状のみ	34
夏目漱石	アミエルの日記	d. クラス会の時のみ	10
島崎藤村	戦争と平和	e. まったくなし	4
島木健作	アンナカレーニナ	f. 電話のみ	2
土田杏村全集	魅せられたる魂	g. その他	2(友人死亡のため)
武者小路実篤	クオパディス		
志賀直哉	罪と罰	11. 学内のいろいろな会について思い出すこと	
倉田百蔵	カラマゾフの兄弟	イ1. クラス会	
北条民雄	ツァラストラはかく語りき	・発表する日、司会のときは落着かなかった様な気が	
山本有三全集	トーマスマン短篇集	します。クラスが小人数でしたので世話役をすることがよくありました	
幸福論(三谷隆正)	狭き門(ジード)	・学部の内容について検討した時、家政三類とは内容	
茶道に関するもの	虐げられた人々	が不明確であるから社会事業学部にしてほしいと要望した事があったが、社会事業家になるためには、	
芥川全集	クオレ	家政学も必要であると藤原先生から説明されたことがあった	
風立ちぬ	ジェン・エア	・女学校時代にはそれなりに得るところもあったと思うが、大学では素直になれなかった	
徳富蘆花	赤毛のアン	・入学前までは大勢の前で自分の考えを発表する機会	
森田たまの随筆	嵐が丘	が無かったので会がある度に戸まどいを感じたが、	
井伏鱒二の詩集	ジャン・クリストフ	他の方々の良い意見や考えのあるのに驚き自己嫌悪	
高村光太郎の詩集	婦人論	に陥った	
冬日ざし(空穂)	(ジョンステュアートミル)	・これらの会で班をつくり、必ず班長をやらされる責任上、非常に人の前で意見を述べることの大切さ、	
ギリシャ・ローマ神話	桜の園	むつかしさを教えられた、それが現在非常に役立っ	
リルケ詩集	人形の家	ていることを感謝しています	
		・クラス会での先生を囲んでの話し合いは、今から考	
10. 学生時代の友達に関して		えると当時としては異色であったのではないでしょ	
イ. どういうきっかけで		うか、三類の独自性を思います	
同じ寮生	83	・藤原先生の純粹さに頭が下がる思いが今もする	
通学生同志	18	・地方の方など、始めはおとなしいが、終りの頃は自	
同級生	13	分の立場を主張し堂々と発表出来るようになる	
席が近かった	5	・クラスメートの考えを聞いて教えられることが多か	
同じ班・同じ係	3	った	
女学校の同窓生であった	5		
話題が共通	4		
論文を一緒にした	2		
学徒動員で	2		
夏期修養会・三泉寮での生活	1		

- ・ 多人数でかたくりしい会が多かった
- ・ 自由主義的な講議で追放された永井先生を討論したクラス会、時流の中で納得出来ないまま、立派な講議を失ったことへの後悔
- ・ 永井先生のこととクラス全員が一週間話し合い、福岡先生が困惑されていたご様子、嫌な気分が落ち着かなかった
- ・ リーダーの指導により一層かたいきずなが出来上がった、松本先生の家庭をもって当時の先生の家と仕事の両立が戦時中如何に大変であったか今更頭の下る思いです
- ・ 入学当初は人前で発表することが大変苦痛でしたが自分自身をみつめ反省してみて皆様方のお話しを聞いていろいろ物事を深く考えてみるようになり、次第に自信が湧き卒業の頃は堂々とお話出来るようになり、それが現在も役立ち誰とでも物おじなく気軽に話し出来るようになりました
- ・ いつもお友達のしっかりした発言を聞いて感心ばかりしていたように思う。自分自身は人の前に考えていることをさらけ出せない性質で非常に消極的であった
- ・ クラス会で「天職使命」について考えを述べ合ったことが印象的、その時私自身は生涯結婚しないで社会事業をしたいと公言した。当時としては誠に真剣に自分を見つめ将来の使命感に燃えていたようである
- ・ ロ下手だったので発表は苦手でしたが、皆さんの発表を伺い自分も考え、その時代なりに真剣に人生問題など考えたことを今思い出しても何かさわやかなものをおぼえます

2. 縦の会

- ・ あまり会が度々重なり、特に印象に残るものはないがムードとしてなつかしい
- ・ 人数も少なく、まとまりがあって、いわゆる三類は同じ道をめざす人々同志の集りのような親近感があった
- ・ 横の会より縦の会の方が親しみがあり、又先生方の体験談などはなつかしい
- ・ どの会もあまり熱心ではありませんでした
- ・ 三類の歓迎会は、皆で部屋を飾り、美味しい料理を学生食堂に注文したり楽しかった
- ・ 先輩や後輩の方々が各方面で社会的に活躍している生き生きとした発言に耳を傾けることができよかったです

- ・ 縦の会で見覚えのOBが現職で活躍していらして頼もしい
- ・ 寮舎の縦の会は4~5名で何時も楽しい会合がもてたと思う

- ・ 上級生が偉くみえた

3. 横の会・系の会

- ・ 他学部の学生とは基本的に物の考え方が違うようになじめなかった
- ・ 氏家先生の自由な考え方に心安まったことを覚える
- ・ 学部の特徴など話したことがあった
- ・ 生活部に入っていました、全体会でとにかく通学生は数が少いので皆が発言せず、つい発言してしまい責任者にされそうで嫌でした

4. 寮舎の会

- ・ 1年生の横の会の時、寮生に対し寮監の干渉が多すぎるので民主的にしてほしいと要望したが、寮の方針であると寮監に云われ大議論したことがあった
- ・ 寮舎でのいろいろな会も啓発され、また楽しかったように思います
- ・ 通学生よりも多く会を持って煩わしいと思ったこともあったが(横・系の会)などで他学部の友人も出来、又決心会・結論会によって自己の心を整理し発表する習慣が出来反省力を養うことが出来たと思う
- ・ 瞑想会の寮舎の鏡の間がなつかしい。寮舎の生活は心温く現在の生活に密着し、ジャガの皮むきしながらゲーテを論じ、アイヌ料理を作りながらアルキメデスを論じた若さと思いやりのある思い出はつきない
- ・ 坐禅、永平寺からこられた城山先生(紫峰寮)が寮監で、余り何も云われずただ坐らされました。この先生と寝食を共にしたことは、私には忘れることが出来ません。80年経った今でも土壇場に立つと、その時覚えさせられた短い経文を口にして祈ります
- ・ 学校生活では余りありませんが寮では決心会、結論会、瞑想会など常にありまして、その度毎に頭を悩ました
- ・ いろいろの会がありましたが、寮舎の会が一番心に残っています
- ・ 生活の大部分を寮舎で過しましたので、日常生活そのものが非常に勉強になり多数の中で円満に暮すという事は現在一番役に立っているのではないかと思います
- ・ 2年生から寮に入ったが寮舎の“おあそび。”と称す

るリクリエーションパーティーは才気に溢れたもので非常に楽しく印象的

- エマソン論文研究
- 寮舎の瞑想会は電燈を消し真暗になるので再び電燈がつくまで長くなり寝ている方もあった
- 寮生活で学期末に真剣に反省して意見を述べ合ったことを記憶する
- クリスマス、新入生歓迎会、卒業生の送別会、その他お遊びの会は非常に楽しかった
- 全寮消燈、月の夜などは煌煌とさし込む月のひかりに泣けて仕方なかった。精神的に向上を努めた若き日の修学の場として最適であった

5. 決心会

- 40年前前のことで覚えてないが決心会に発表したことも守れず、結論会で反省ばかりしていたことを思い出す
- 決心会、瞑想会は時局の話ばかりが多くなっておりました、しかしゆるみのない張り切った生活の持続の為に、やはり大きな力になっておりました。友達の真摯な発言に感動させられたことは度々でした
- 人前で発表するよい訓練の場として楽しく思い出される
- 決心会で決心したことを如何に結論づけるかで苦勞した

6. その他の会

- 夏期寮での瞑想会は今もときどき思い出します
- もみの木の下での誓いは、現在社会奉仕という形で地域活動につながり、明るい地域づくりをボランティア活動しています
- 夏期の海岸での修養会は何もかも全部楽しい思い出でした
- 瞑想会も良い経験と云いますか、現在でもときどき実行しては自己反省しています
- 入学当時8年間の決意と信条とする言葉を色紙に書くよう云われ「勇気」と書いた。自分が正しいと思うことは何と云われても勇気を持って行く気持ちをごめた
- どの会も充実していたが深く入れなかった
- 寮生活で始めて瞑想という宗教的な雰囲気身を身につけたことは大きな収穫
- 瞑想会は自分を見つめるのに良い会だった
- 「 退屈でつまらぬ会と思った
- 「 形式的な感じがした
- 附属から同様の会を経験して来ていたので何の印象

も残らない

- 戦後、学校が再開されたとき「何が本当なのか、何を信じてよいのかわからない。」と発言した人が多くいた事が印象に残っている
- 終戦後、云いたい事を憚ることなく云えて嬉しかった
- 当時は苦しい事もあったが、今となっては役に立ったり身につくものがあった

11. ロ. こうした会についての感想

- a. よかった 44%
- b. 悪かった 21%
- c. 無回答 35%

a. よかった理由

- 卒業してから会のまとめ方、発表の仕方など気づかぬうちにいろいろの会で成長していたことに気付いた
- 夏期の修養会などは非常によかったと思う
- 形式的だとは思いますが、矢張りあった方がけじめがついて良い
- 内容が自発的で楽しければ良いと思う
- 夏期寮は今後もお続けになると良いのではないでしょう、心の結びつきが出来ます
- クラス会は現在高校生活にあるHRのようなもの、一週間に一度あり自分の意見など出し合いました。すべての会合が自主性を養うという所にポイントが置かれていたと思う、勿論大きくは人格形成ですが
- 生涯教育の重要性に目をつけていらっしゃる成瀬先生の偉大な精神を見ることができる
- 何等かの形で是非必要と思う
- 20才までの精神教育は非常に大切
- 今から思えば良いことだと思うが、その当時は又かと思っただけがあり当時は苦痛でした
- 入学時の誓書、決心した初心はずっと一生の支えとなっている。友達と静かに考え、話し合う時間を持ったことは有意義に思います
- 自他の考えを発表出来る機会が多いことをよいと思っていた
- 入学当初はおしつけられるような、もう一つ雰囲気にとけ込めない感じでした
- 多くの方の意見を伺うことは有意義に思うが、この雰囲気になじめなかった。その点寮での会の方が楽に感じられたのは大岡先生がズバズバと体当たりで切り込んで下さったからだと思いがち

- ・ 当時は何も考えません、勉強もしない学生でしたので会に出るのが非常に嫌で仕方なく出ていました
- ・ 在学中は余り意義を感じなかったが、社会に出て印象に残っていることを感じた
- ・ 学校の教育方針と思った
- ・ 討論し合うことに自由な民主的な会の意義を見出しとても良いと思う
- ・ 人間としてはよかったと思うが、女としては(正しいと思う事をハッキリ云うこと)かえって邪魔になることが多い様思う
- ・ 女子大の名物は会だと云うのはユニークで効果の多い教育内容であると思われる。話すこと、聞くこと、司会すること、すべての人がそれを体験することの意義は大きい。どのような時代でも、このトレーニングの価値は高い
- ・ 私立だなーと思った
 - 創立者の意図したことは全く形骸化して意味をなさず言葉の遊戯に終って、実生活の行動と結びつかなかった
 - 切角の時間を有効に使い切れなかった
 - 自分の考えを外に発表することに抵抗を感じた
 - その都度問題提起があったわけではなく、事務的に行事の様な感覚でいたのではないか
 - 重苦しい圧迫感があった
 - 余り熱の入らぬ会が多く、時間が無駄と思っていた
 - あまり教育者の方が行きとどきすぎて却って若い人に反撥を感じさせたのではないでしょう
 - いまの言葉で「きびしい」の意味を感じていたが、そのようなものだと思われていました。真剣に考えるとき少々批判的な態度をとったこともありましたが
 - 会合の効果について疑問を持っていた
 - 口先のうまい生徒は先生方に良く思われ、表現力の乏しい自分はとても嫌でよく休みました
 - ほとんど嫌悪感をもちました。とも角本気で社会に取り組んで働こうとする肝心の基本線の欠けたムードのなかですべてナンセンスに思えた
 - 愚劣だと思ひ反撥することが多かった、しかし考えることの訓練は、こうした中で知らぬ間に身につけたのかも知れぬと思う
 - 残念ながら私達の場合は戦時下であり、会としての十分な成果は得られなかったのではないのでしょうか
 - 少しも親近感がなく自分だけが一人浮いているようでした

12. 実践倫理に関して

イ. 思い出すこと

- ・ 仏陀のこと、大乘仏教、小乗仏教、キリスト教などすべて実践する道は異なるが窮極の点の一つである。校章はそれをもとに作ったものである。
- ・ 渡辺先生、ときどきは井上秀子校長先生の釈迦の説教、その他式服の由来など宗教に結びつけてお話し下さいました
- ・ 常に目標が高いところ、遠いところにあり非常に難しく考えていましたが、今考えても敬けんな雰囲気が高い、熱心に筆記をとりました
- ・ 三大綱領など一生記憶に残ることです、ノート提出が大へんでした
- ・ 渡辺先生の講話は、具体的には覚えていませんがよかったように思います
- ・ 井上秀校長先生の講堂でのお講義は何っているときは敬服していました
- ・ 棄隨精神の講義が印象に残った
- ・ チーンと云う鐘の音に始まる瞑想。テーマでは「血液型に合った進路のえらび方」間宮老師の講話に感銘を受けた
- ・ 自己に忠実に愛の心で生涯前向きに生きて行くようにということ
- ・ 信仰について
- ・ 「目にみえぬ」の詠唱は心を鎮めてくれた
- ・ 井上校長の見牛(牛を見出す)禅の話らしいもの
- ・ 井上校長の百尺竿頭歩一歩の言葉だけおしつけばかりで身につけなかった
- ・ 宇宙の大生命
- ・ 親らん聖人の講話
- ・ 井上校長のお声の若々しさ、力強さ
- ・ 成瀬先生の思い出を伺ったことが印象に残った
- ・ 始まる時歌を歌ったこと、伴奏のピアノを弾かされた
- ・ 講堂、厚いノート、渡辺先生の誠についてのお話
- ・ 実倫ではないが戦時下海軍将校が演説したあと学生の大部分が、こんなんびりと学業をするのは非国民だ、今すぐ戦争に参加すべきだと井上校長につめよったとき、「国を思った貴女たちのとるべき道は学業の統行だ」とキ然と云われた信念で学生争動は治った
- ロ. 実践倫理に対するあなたの考え
 - ・ およそむなしただけです
 - ・ 考えさせる、実行させる実践倫理が望ましい

- ・考えのおしつけでなく、若い人が身近に考えられる様なテーマを選ぶことが肝要だと思ふ
- ・実践倫理の最高の原典は四書五經だと思います、これを教えてほしかった
- ・講堂で三類、国文科、英文科のマンモス講義でよく聞えず、内容の検討まで及ばなかった
- ・反撥のみであった
- ・その頃は特に思ったことはありませんでしたが、学校の教育方針として私の心の深くに残っています
- ・当時はむずかしく嫌な時間でしたが、今になってみますと一番必要な、大切な時間だったのに、余り熱心に聞きませんでもったいないことをしたと思います
- ・宇宙の大生命の中の自己の使命ということに眼を見開かされたのは実倫のお陰と感謝しています
- ・根本理念と共に社会現象の中での個々のかかわりを追求して学ぶべきと思ふ
- ・異なる学科の生徒が実倫に関しては全く同じ講義を聞くという事は、同じ学舎に学ぶものにとって意義ある事と思ふ
- ・人間が生きて行く上に一番大切な道、基本的な精神としては今でも良いと思ふが、やはり戦争とか思想に関する事に於いては随分矛盾があったことに気がきます
- ・当時は不熱心だったが、繰り返しお教え頂くことに依り、人世如何に生きて行くべきか根本的な事か肌を通して教えられたと思います
- ・当時は仏教も神道もキリスト教も根本は一つであると言う様なことだったが、現在は日本キリスト教団の一信徒として別の考え方をしています
- ・卒業後の桜楓会の人的関係の上にも創立者の精神が生きていると思ふ
- ・人を惹きつける話術を持った先生の講義が必要、さも無くば三つの額のことばを考えさせる方が有意義と思ふ

実践倫理の記録（福富恵子氏所有）の一部を次に掲げておく。

S. 17.7.8 夏季休業に於ける集中事項

「共栄園の指導民たる女性皇民としての我が責務と教養」

共栄園の確立にむかって我が国民はあらゆる力を出して早くこの目的を達成して大御心を安じ給ふ事が今の第一の目的である。しかし日本国民であると云ふ限りを必要としない。ただ我々は指導的国民の立場であると云ふ事ははっきりさせて日本国民としての

心がまえを考へる。どう云ふ事が最も必要であり適切な要求であるか、と云ふ事を察して考へなければ、その目標は定らない。日本国民は文化人であるとは云へ指導者としてたつもの資格があるものもないものもある。

我は一般的には女性の高度の文化人であるとは云へる。

しかし、知識階級には団結がないとか、実行力がないとか、議論に時間を空費したりすると云ふ欠点もある。

問題の目標は、

職能上に於ける女子の地位

国民家庭生活の思惟と動向

女子の国家、公共的活動

女子一般教養とは

大東亜共栄園指導民族としての新しき国民としての性格

国民生活理解徹底

生活技術強化の徹底

裁縫、家事、保健、衛生

学問、教育の徹底

教授の仕方の徹底

学校、保育所の敷設 等々

18.イ. 運動会に関して思い出すこと

- ・ブランド先生（独人の女子体操の先生）の体操、高桑先生のダンスなど、余り点数の事などおっしゃらず楽しかった思い出す
- ・或る年にブランド先生のダンスを運動会で踊る時、戸山学校軍楽隊が来て音楽とダンスが合わなくて困った
- ・きびしさ一方の体操をさせられたこと、リレーが一番おもしろかった
- ・ニッカーの運動服が印象的でした
- ・幼稚園から大学生まで一つところに集まって行なわれたこと
- ・西生田で運動会が済み、夕方紅葉の山の色をよく思い出します
- ・自治会の全員参加がよかったと、その日の光景なども思い出します
- ・体育係の方が実によくやっていた
- ・学生全部が鬻を付けねばならなかったので髪の毛の短い方は梅干位の鬻を付けた
- ・販売するお菓子、招待のお客様のお料理を作ったことなど
- ・自主的であったのですが地方の女学校の厳しい規則に馴らされた身には穴のあいた感じがした
- ・これがすべて生徒自体の手に依って行なわれたのですから立派であったと思います
- ・音楽に合わせて運動場を全員が行進したこと
- ・クロスワード、上品な応援団

- 1年の時1回だけ、応援がおもしろかった
(38回生)
- 戦時中の為あまりやらなかったように思う
(38回生)
- みどりの旗を振って小人数の学部にも拘らず勝った
ときのこと(41回生)
- 運動会で皆に防火訓練を披露したとき宮様が来られ
たこと(41回生)
- 戦時中の為、いつも国防訓練の公開ばかり、バレー
ボールでたのしかったこともある(42回生)
- ロ. 音楽会
- 一宮先生の指揮が素晴しかった
- 楽しいものでした。特に木下保先生御指導によるコー
ラスは(34回生)
- レコードコンサートに1回欠席しましたがその道
の方の説明を聞きましてベートーベン等今迄とは違
った観賞が経験出来ました
- 講堂でのコーラスの練習が楽しかった
- 41回赤尾さんが「花咲か爺さん」の曲で歌ったこ
と
- バイオリンを弾いて出場した
- 戦時中の為、これらの催しは学内ではなく個人的に
演奏会へ行っただけ(41回)
- 日比谷での新世界などの音楽会の楽しさ
- ハ. 展覧会
- 戦時中デパートで行なわれた代用食展, 更生品展
- 三越でやりましたのを良く思い出します
- 防空服装とフランス料理の展覧会
- ニ. その他の会
- 演劇発表会で「正行の母」が素晴しかった
- 日比谷公会堂での英文科のシェクスピア劇の立派さ
のおどろき
- バザーが良かった
- ハイキングに行ったこと
- 学部の遠足が数回ありましたが、1年生から3年生
まで同じブラウスを作り、利根川へ遠足したときの
楽しかったこと

14. その他の行事で思い出すこと

- イ. 学内生活
- 2年生の時、3類の謝恩会で日本舞踊をしました
- 雑誌を作ったこと(註)
- 留学生について疑問がありました。もっと日本語が
出来ないと無理なことだと思いました。

- (41回生) 2年生以後は宣戦布告及勤労奉仕
- 千葉県富津, 軽井沢での生活は今でも楽しく想い出
す。

(註)『学部雑誌』が昭和17年に出されている。この雑誌には
友枝高彦「我等の責任」、小鰐虎助「根岸病院と故森田博士」、
生江孝之「亡き母を偲びて」が掲載されている。和歌、詩、散文
等、8類の学生の書いたものが中心となっている。次にその1つ
を紹介しよう。

私の過去帖

8年 田 島 正 子

愈々卒業である。2年半の生活、これと思ふことがありすぎて、
とうとう過去帖が出来上ってしまった。(略)

× × ×

私は間もなく眠るであらう。父の魂に抱かれるであらう。野の
一隅の地下に短き生涯を閉じるであらう。私はその日の来るのを
待っている。私はもうめんどろなだ。真剣に生きる気持が磨り
減ってしまったのだ。多くの人との接触がうるさいのだ。静かな
山に行きたい。だがそこで私は必ず俗世を欲するだらう。そんな
生活を繰返すより、松籟と浮雲のあの静かな野末の墓に、もう帰
って来られぬ彼処に永住することを望む(厭世感を抱いてゐた頃
のもの)

× × ×

プラトニック ラブ

此れは人間の無責任の上のみ存在する(年令的なものは別とし
て)人は精神的の交りに依つてのみ、責任の重大過を避けんとす
る、卑怯な事ではないか。本当の恋愛なら、卒直に云へば異性の
一切に合一する所まで高潮する筈である。盲目ではなく真の天心
に置いて、同時に数個の魂を愛する時、それは精神的の美名にか
くられて行はれる。それは愛であつて恋愛ではない。併し勿論、肉
体のみを求めて愛なきは又衆生のものにして此処にて論ずるに当
らぬ事である。

× × ×

何故人は自己のみの日記にさへ、自己を飾るのであらうか。私の
過去帖、私の日記をよみそれを痛切に感じた。人間は衣を蔽ふの
が本能である如く、精神も又蔽ふのが本性なのか

× × ×

苦しみに真向にぶつかり苦しめるだけ苦しむ事の出来る人は幸
福である。人間は苦しむ事によってのみ向上する事が出来る。

× × ×

自分を標準とし、自分を尺度の目盛にする事に依つて、誤解が
生じ、又井の中の蛙となる。自己を信じ愛する事は当然の事であ
るが、盲目になってはおしまひだ。

× × ×

私は不純なのか、誰か答へてくれ。

× × ×

私は恋愛してよいのか、分らない。

× × ×

止せ、うそを云つてはいけない。

× × ×

題は過去帖であるが、私は未だ当分は生きるつもりである。カードの志望欄には、真面目に「良妻賢母」と書いた。未だ良妻にも賢母にもなっていないのに死んでたまるものではない。けれど2年半の月日の生活は、過去として頭にも残して置きたい。日記帖も遠からず風呂の燃料として役立つであらう。此の世で再び逢えぬ人とは、又あの世で逢ひ、思ひ出に耽る時をもちたいものである。

ロ. 寮舎生活

- 良かれ悪しかれ共同生活という面では自由に出来ないことで多少のつらさはありませんでしたが、私にはおおむね楽しい事の方が多かったように思います
- 卒業前に寮監に着物を作ってもらったことが懐しかった、又卒業記念に文箱を(家紋)送られたことがうれしかった
- 家庭的な寮で他の学部の方とも仲良くなり、お料理なども自分等で作る自治寮だったことが卒業後とも役に立ちました
- 学期末のお別れ会で余興をしたこと、友達の悪い点を云い合う会をしたこと、お部屋で心を割って話し合えたこと

C 卒業後について

1.イ. 卒業後すぐ

就職した 50名
就職しない 68名

ロ. 卒業直後の就職先名及び期間

- 東京市役所社会局保護課 1.8年
- 児童福祉施設の主事(幼稚園, 保育園, 乳児院併設) 10年
- 警視庁保安部工場課工場監督官補 1年
- 文理大, 倫理学部副手 6ヵ月
- 学内図書館 2年
- 聖心愛子会修道会々員
- 長野職業安定所 2年
- 事務 10ヵ月
- 東大航空研究所 6ヵ月
- 熊本大学医学部研究室補助員 "
- 第一陸軍造兵廠雇員 1.5年
- 宇部興産重役秘書・厚生課 1.10ヵ月
- 女学校教師 2ヵ月
- 日本通運若松支店 3年
- 中央社会事業協会・研究生 4名 1年
- 東大図書館 1年

- 生産工場で学徒係 1年
 - 女子勤労者の指導員 2.5年
 - 徴用援護会奈良県支部 11ヵ月
 - 日雇女子勤労訓練所 数ヵ月, 空襲の為閉鎖
 - 運輸通信省勤労局勤労課 11ヵ月
 - 銀行事務員 2年
 - 芝浦製作所勤労課 5年
 - 保育所保母 現在まで
 - 九州保健婦養成所の舎監兼書記 2年
 - 東京産業報国会主事補
 - 英文タイピスト 2年
 - 白木屋デパート 3ヵ月
 - 川西航空機姫路工場工務課 3年
 - 厚生省勤労局管理課 1年
 - 陸軍作業廠員(1年)雇員(1年11ヵ月)
 - 臨時研究室助手 7ヵ月
 - 母校女学校教師 1年
 - 県立高女教師 6ヵ月
 - 大阪帝国大学工学部実験嘱託 1年
 - 教員
 - 町役場統計課 1年6ヵ月
 - 労働科学研究所, 都之城分室 "
 - 労働省職業安定局事務官 4年
 - 農林省岡山農地事務局 1.10年
 - 研究室事務 6ヵ月
 - セツルメント手伝い
 - 警視庁労政課 2年
 - 枢密院雇員 1.8年
 - 東京第一造兵廠作業課 2年
 - 東京帝大雇員 1.6年
 - 産業設備営団 6ヵ月
 - 季節保育所 "
- (註) 就職年限の短いのは、終戦によって郷里に帰ったため。

ハ. 紹介者

紹介者	先 生	研 究 室	指 導 者	知 人	友 人	そ の 他	試験 入学前に就職 在籍のまま通学し ていたので など
人数	9	1	8	11	7	19	

ニ. 職業を選んだ動機

- 学校や実習で得た知識を活かしたいと思った
- 先輩の推薦で就職した
- 卒業後、もっと勉強したい気持ちの時是非と進められた為
- 入学以前からでした (在職のまま通学した)

- ・職業を持っていなければ挺身隊にとられる時代でした
 - ・先輩の方が入られて、あこがれていたのです
 - ・空襲がはげしくなったので近くの工場で何らかの役に立ちたかった
 - ・卒論のテーマからそれを実際に仕事にしたいと考えていた
 - ・郷里であること、労働問題と社会事業がやれそうだと考えたこと
 - ・興味を持ちはじめていた勤労婦人の問題への関りから
 - ・戦時中のこととて、もう少し社会事業界の実状に触れてから考えをまとめたいと思った
 - ・家業を手伝った形
 - ・卒業が早くなり就職する為の基礎が不十分だと思った
 - ・婦人労働問題に興味をもつ
 - ・事務整理を習得のため又、語学を学びたかった
 - ・戦後工作の一環として日本語教師を志願する為の足がかりとして白木屋デパートを選ぶ
 - ・自宅よりの通勤が便利であった
 - ・暉峻先生の御指導のもとに働きたいと思った
 - ・インフレ化の時代、小遣いは自分でと思った
 - ・戦争に勝つための手伝いとして
 - ・気楽そうだったから
- ホ. 職業の条件について

給料	20円 ～40	40円 ～50	50円 ～60	60円 ～70	90円	160円	無回答	計
数	4名	3名	8名	5名	1名	1名	28名	50名

勤務時間	7	8-9	11	12	30時-40	自由	無回答	計
数	1	22	1	1	1	1	23	50

有給休暇	あり	なし	無回答
数	17	10	23

- へ. 三類で学んだことが役立ったかどうか
- ・役に立ったと思う 15
 - ・間接的に役に立ったと思う 10
 - ・全体としては役に立っている 5
 - ・労働法規については、学校で習ったものは役に立たなかった 2
 - ・就職当時は役に立たなかったが、後社会状況が変り必要な事ばかりだった 3
 - ・基本的な考え方の上で大いに役立った 10
 - ・役に立たなかった(図書館・小学校教師ほか) 7

- ・職種が違うので比較出来ないが、深く物を考えること、最高学府に学んだことで、女子社員の指導的立場に立った

2. 職歴について

イ. 現在までの就職状況

就職した	60%
就職しない	3%
無回答	37%

ロ. 転職数と勤務年数の関係について

年数	1年未満	1-2	2-3	3-5	5-10	10-20	20-30	30-38	不明	計
一回目	a	6	20	2	8		1		8	48
	b	8	9	2	1				1	21
二回目	a	8	6	8	2	4		1		19
	b	4	8	8	1					16
三回目	a		5	1	1	8	8			18
	b	4	1							5
四回目	a		5			2	1	1		9
	b		2							2
五回目	a		2	1	1	1				5
	b	1								1
六回目	a			1			1			2
七回目	a		1	1						2
八回目	a		1							1
九回目	a				1					1
十回目	a				1					1
計		26	60	14	11	10	6	2	8	9

注 a. 仕事をつづける人
b. あと仕事を持たなかった人

3. ボランティア活動

した	しない	無回答	計
26名	25名	62名	118名

- ・一人暮らし老人を対象とした東京都老人相談員
- ・人権擁護委員
- ・地区保健推進委員
- ・栄養改善推進員
- ・公害をなくす三原市民連絡会代表
- ・民生委員・児童委員
- ・更生保護の協力・更生保護婦人会
- ・家庭裁判所調停委員
- ・YMCA奉仕部・1日行きミシン掛け
- ・警察協助力員・労働省婦人少年室協助力員
- ・地域婦人会・美里町明るい町づくり
- ・精薄児施設
- ・町教育委員
- ・公民館運営委員
- ・子ども会・幼児グループ、レクリエーション研究会
- ・YMCAグループリーダー
- ・西宮市公民館、生活相談員
- ・B.L.Cリーダー(新聞社)

- 社会教育委員
- いのちの電話相談員
- 港区長期計画審議会審議員
- 母子福祉事業への協力
- 児童福祉事業への協力
- 図書館協議会委員
- 中央公民館審議委員
- 心身障害児を守る会顧問
- 生活学校推進委員
- 貯蓄推進委員
- テレビ番組審議会委員
- 情緒障害児その他の心理治療とケース・ワーク

4. 卒業後進学の有無

イ. 進学した 進学しない 無回答 計
 15名 45名 58名 118名

ロ. 進学先

- 広島大学・広島女学院大学(聴講生として)
- 洋教学校
- 中央社会事業協会・社会事業研究生として
(社会事業講義・見学・実習などを専攻) 5名
- 東京高等服装女学院(和裁)
- 明治大学(法律)
- YWCA(ケースワーク, グループワーク)
- YWCA 体育専門学院(社会体育)
- 東洋大学(国文)
- ミネソタ大学・大学院(家政学)
- アメリカン, ユニバーシティ
(オイルペインティング)
- 同志社大学(ケース・ワーク)
- 京都大学で病理学聴講

5. 資格取得の有無

イ. 資格とった 資格とらない 無回答 計
 39名 41名 88名 118名

ロ. 資格名

- 茶道教授(表) 7
- 華道教授(草月流, 池坊) 13
- 日本舞踊 1
- 保母 8
- 教員免許(幼稚園・小学校・中学校) 3
- 書道 3
- 小笠原礼法 1

- 細川流盆石 1
- 図書館司書 1
- 社会保険労務管理士 2
- 自動車運転免許 1
- 看護婦 1
- 16ミリ映写機免許 1
- 和裁教師 1
- 編物教師 1
- 技能資格証・袋物工芸8級 1
- アートフラワー師範 1
- 衛生管理士 1

6. 表彰等について

- 交通安全に協力
- 貯蓄推進
- 県文学賞「歌集」
- 地域活動
- 知事表彰 優良職員として
- 心身障害児の治療教育に貢献 田中健賞

7. 著書・論文・文集など

書名	発表年時
プラテローとわたし(スペイン文学)共訳	昭和40年1月
ヒメネス詩集 共訳	昭和48年6月
歌集・求道	昭和33年
・・深雪	昭和37年
句集・返り花	昭和48年
片隅の発音	昭和44年
結婚退職後の私たち	昭和46年
PTAリータン研修プログラムの企画と展開	昭和48年
心身障害児の早期治療に関してー その発達測定とカリキュラムについて	昭和36年4月
日本農業機械化の分析	昭和36年
家計費の分析など20篇	昭和34年より 毎年
日本との対面	昭和40年4月

8. 結婚について

a. 結婚した 結婚しない 無回答 計
 92名 11名 10名 118名

1. 結婚年齢(才) 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 33 35 計
 数(名) 5 14 15 18 11 10 9 3 2 2 2 1 92名

a.2. 子ども有 87名
 子ども無 5名

a.2.イ. 子ども数 1名 2 8 4 5 計
 数 14 42 25 5 1 87

8.3. 配偶者 有	86名		
配偶者 無	6名		
9. 現在誰と住んでいるか			
1人	4	夫と子ども夫婦と孫	3
友人	1	子ども	4
夫	21	母	1
夫と子ども	48	妹、弟	2
夫と子どもと姑	18	その他	11
10. 現在の家族数			
1人	2	3	4
2名	18	28	80
		14	6
		2	1
			12
			118名
11. 自分を生かす為に何かしているかどうか			
何もしていない		33名	
している		80名	
俳句			2
エレクトーン・ピアノ・アコーディオン			6
短歌			5
ママさんコーラス			1
茶道			9
華道			7
書道			8
琴・小唄・三味線			3
料理			2
謡曲			1
日本舞踊			2
ホームスパン、機械			2
手芸：佐賀錦・レース編			3
和裁			1
洋裁			3
アートフラワー、皮手芸、木彫			5
木目込人形			1
陶器			3
ろうけつ染			1
袋物作製			1
盆石			1
墨絵・油絵			11
英会話			5
スペイン語、文学の研究及び翻訳			1
フランス語			1
エスペラント学習			1
古典講座、万葉を読む会、古事記の研究			3

カウンセリング	8
聖書	2
読書会	1
歴史、思想史の勉強	3
福祉関係の勉強	1
ロールシャッハテスト研究会	1
点訳	1
公害の勉強に取り組んでいます	1
登山をやりヒマラヤとヨーロッパ、アルプス登山をしました	1
スポーツ	1
みどり会、桜楓会の活動	1
12. 現在所属している団体名	
家庭裁判所・調停委員の会	1
大学婦人協会	4
婦人国際平和自由連盟	1
公害をなくす三原市民連絡会	1
学童保育連絡協議会、東京都の会長	1
新日本婦人の会	1
桜楓会理事、支部長	1
医療生活共同組合の理事	1
地域婦人会長	6
西宮カウンセリング協会	1
社会党・日本婦人会議東京友の会	1
ユニセフ	1
更生保護婦人会	1
YWCA	2
桜楓会	1
盆石社中	1
師友会	1
家庭裁判所・参調会	1
日本社会福祉学会	1
婦人有権者同盟	1
みどり会	1
ひととき会	1
虹の会(全国婦人会議出席者グループ)	1
日本産業カウンセラー協会	1
精神身体医学会	1
日本福祉学会	1
日本ナザレン教団伝導師	1
枝光会(キリスト教団体)	1
日本家政学会	1
教会婦人会	3

消費者協会	1
ケースワーカー協会(埼玉県)	1
裏千家淡交会々員	1
バプテスト教会	1
主婦連合会	1
社会教育振興協議会	1
港区社会教育推進協議会	1
いけばなインターナショナル	1
一葉式いけばな	1
いのちの電話	1
全国PTA研究会	1

- ・人世, 人間の真実の姿を見る姿勢を教えられた
- ・就職の場合, 評価が比較的高い
- ・人間関係調整のようなことをライフ・ワークに考えるようになって一層この科に学んだことを良かったと思う
- ロ.
- ・卒業後, 社会事業に関する仕事に従事しなかったので教育内容が生かされぬ
- ・社会, 人世に対する考え方が規定化されてしまった
- ・芸術的とか, 広い人世を考えるのに障害になった
- ハ.
- ・思いがけず小学校教師を致しましたが中途半端でした
- ・家政学部と云う名であったので, 社会学部とは知らずただ驚きだった。入学時65人位, 夏休過ぎに40人位になり, 2年になる時更に少くなり心配しました
- ・この科を選ぶしかなかったけれど, 結果は余りに内容がなかった
- ・自分の性格に向かなかった様に思われる
- ・何とも云えない
- ・何も資格が得られなかった

13. 現在より考えて三類に入って

良かった	86名
悪かった	2名
その他	9名
無回答	16名

イ. 良かった理由

- ・物事を広く深く考えようとする生活態度が養われた
- ・社会福祉が進んで来た今日, 若い時代に幾らかなりとも勉強し得たことは現在理解する上において役立つ
- ・自分の知らぬ間に社会の種々の面から勉強出来たことは良かったと思う
- ・学校で勉強しなかったら社会事業など知らずに生活した。いろいろな事柄に対して無関心ではられない
- ・自分で選んで進学した学部であり, 今でも物事を思い上らず冷静に考えられる様な気がする。何時も弱者の立場で物を考え, 判断することが出来る
- ・よい師にめぐり合うことが出来たこと
- ・こういう科に入って愛情の尊さを教えられ, ますます愛情を育んでいかねばならないと思いました
- ・社会福祉について何となく身についたものを自覚する
- ・社会に対する目が開かれた
- ・物事を一方より眺めず, より広く全体から見る習慣と, 自分より下を見れば自分は幸せであり感謝が湧いてくる
- ・家事の他に社会奉仕が出来た
- ・社会問題を真剣に考え, 不幸な人の役に立ちたい気持ちを持つようになる
- ・主人の死後, 何のためらいもなく就職することが出来た

14. 最近の社会的な問題で関心の深いもの

・現代の学生の行動	4
・政治問題	6
・公害問題(自然保護, 環境汚染, 食品公害)	28
・物価問題	14
・老人福祉問題	18
・身障者の問題	2
・社会福祉的な問題	6
・青少年の教育(浅間山荘, ゲリラ, ハイジャック)	4
・交通問題	2
・平和運動	8
・働く婦人の増加とそのひずみ	1
・社会生活と教育とのかかわり方	1
・医療保険制度	2
・老後の問題	20
・教育の問題	9
・施設の不足	1
・女性の地位向上	1
・若い人の人世観について	1
・若い人のセックスに関する知識	1
・新しい家庭の創造	1

- 妻の蒸発，子を捨てる親
- 原因不明の病気

15. 現在の学生に期待すること

- 入学時の純粋な心で社会福祉にとり組んでほしい
- 卒業後も学んだことを生かしてほしい
- 生きた勉強を，そして卒業したら実社会で生かして頂きたい
- 広く社会を眺め，その関連性に公平な判断力を養う訓練をして欲しい
- 理想的な施設機関で働くのではなく，一番欠けたところでパイオニアとして働いてほしい
- 現在，今後社会福祉は日本にとって大切な問題，前進してスペシャリストになってほしい
- 人間的成長，法律をマスターする，カウンセラー等の技術をマスターすること
- 学校で学んだことを，積極的な向学心で自分のものとする，1 課目でも確実なものとするよう
- 許された四年間を充実して勉強し，将来家庭に入れば社会的な活動は制限される場合が多いけれども，その環境に応じて明るい社会の建設の為力をつくして頂きたい
- 基礎的なこと，系統的な勉強を在学中はしっかりなさしてほしい
- 私共の時代に比べて比較にならぬほど社会福祉は重大な問題であると思います。今の学生の方々が実社会に於て，本当に活躍出来る様に在学中実力の養成に励まれる様祈っております
- 大いに勉強して若い力で公害の問題も，老人福祉に対しても積極的に軌道にのせてほしい
- 学生の時は時間にも余裕があるので，しっかり勉強して頂き，卒業後の生活に役立てていただきたい
- 若い力で現状をよりよく改善するために，社会の一員となってじっくり働くこと
- 学校は学問の殿堂で政治運動の場ではない，徹底して学問を探究し政治に不惑があるなら社会に出て堂々と政治家になればよい，本来の学生精神にかえられたし
- 現実を見つめ，追求する力を作り，仕事にねばり強く入って行けるようにと願い期待しています

16. 学んだことで現在の生活に生きていると思う事柄

- 社会福祉について基本的な考え方を学んだことは今も役立っている。レポート作成，意見発表の訓練を

受けたこと。よい先輩，後輩が多く社会活動されているので心強い

- 生徒達の心，色々の生徒の家庭のことを考える
- 各層の人々との接触にも異和感がない，相手を理解出来る
- 地域社会とのつながりに於てケースワークが生きてくる
- 当時は有難迷惑な家事処理方法も生活技術として欠かせない
- 何事も真面目に考え前進することを考える
- 人類愛，奉仕の精神
- 若い人との話の時代感覚が把める
- 異常児についての知識，心理学
- 他人を多く使う仕事をしているので，広く学んだことが役に立ち相談相手になったり，又，自分の仕事でも処理の仕方が判ったように思う
- 社会の底辺に居る弱者に対しての理解，思いやりを持ち，世の中をより人間的に渡ることが出来ます
- 社会衛生，施設見学は毎日の生活にも役立っています
- 自分の体力の許す限り社会とのつながりを持ち，少しでも社会にお返し出来たらと思う
- 時間にそろそろ余裕が出て来たので，そろそろ社会奉仕したいと思う様になった

社会福祉学科 50 年史関係年譜

(1988 (昭和 8) ~ 1945 (昭和 20))

年代	日本女子大学関係	社会福祉一般	一般事項
1933 (昭和8)	(4)社会事業学部を廃し、家政学部第3類をおく。課程3年。 この年、卒業生の会桜楓会社会部に社会事業グループ会、結成さる。	(4)児童虐待防止法。 (5)少年教護法(→昭和22)	(2)日本国際連盟を脱退。 (3)三陸地方大地震大津波。 (5)滝川事件。
34	(3)社会事業学部第10回生、女工保全科2名、児童保全科7名卒業。	(4)恩賜財団愛育会設立。	(6)文部省に思想局設置。 (9)室戸台風のため関西地方大被害。 (12)ワシントン条約廃案。
35	(3)社会事業学部第11回生6名卒業。	(1)東北農村共同施設	(1)美濃部達吉の天皇機関説問題化。
36	(3)社会事業学部第12回生8名卒業。 家政学部第3類第1回生18名卒業。	(1)方面委員令(→昭和21)	(2)2.26事件 (3)内務省、メーデー禁止を通告。
37	(3)家政学部第3類第2回生20名卒業	(3)母子保護法(→昭和21) 軍事扶助法(→昭和21) (4)保健所法 ・出征軍人遺家族児童教護運動さかん	(7)日中戦争勃発 (1)日独伊防共協定成立
38	(3)家政学部第3類第3回生18名卒業	(1)厚生省設置。 (4)社会事業法(→昭和26) (4)国民健康保険法(→昭和33)	(4)国家総動員法公布
39	(3)家政学部第3類第4回生23名卒業 (1)「生活劇新大人紙芝居」を皇后陛下に献上。	(3)司法保護事業法(→昭和25) (4)厚生省に結核課新設	(7)国民徴用令 (9)第2次世界大戦勃発
40	(3)家政学部第3類第5回生18名卒業	(4)国民体力法 (5)国民優生法(→昭和28) (8)日本社会事業研究会、日本社会事業の再編成要綱	(9)日独伊三国軍事同盟締結 (10)大政翼賛会発足
41	(1)井上校長大日本青少年団副団長に就任。 (2)日本女子大学校報団結成式を行なう。 (3)家政学部第3類6回生81名卒業 (4)日本女子大学校創立、40周年記念式挙行 (8)8日まで教職員第1回防空訓練 (10)全校生徒防空訓練 (12)家政学部第3類7回生32名卒業	(3)医療保護法(→昭和21) (12)国民徴用令改正、扶助規則を設く	(1)大日本青少年団結成 (4)国民学校令 (10)大学学部等の在学年限または修学年限の臨時短縮に関する件、公布(16年度は8か月短縮、17年度は6か月短縮) (12)太平洋戦争おこる。
42	(9)家政学部第3類8回生54名卒業	(2)日本母性保護会発足、戦時災害保護法 (6)厚生省、国民保健指導方策要綱、高木憲次、整肢療護園開設	(1)学徒出動命令出る、大日本翼賛壮年団結成。 (2)大日本婦人会発足、6月大日本青少年団と共に大政翼賛会の傘下に入る (2)食糧管理法

年代	日本女子大学関係	社会福祉一般	一般事項
1943	(6)細山託児所施設に参加(3週間) (昭和19年まで春秋の農繁期に参加) (9)家政学部第3類0回生67名卒業	(5)厚生省戦時下母子保健対策協議会開催	(1)大東亜宣言
44	(1)学校工場開始 (4)本校新学則で発足、修業年限3年、家政理科、歴史科を新設、家政学部第3類管理科となる。 (4)第一次勤労働員壮行会、全4年生勤労配置につく (6)第二次勤労働員、1年次を除く全学生配置につく (9)家政学部第3類54名卒業、1年生勤労働員	(6)大都市の学童集団疎開決定	(2)学徒軍事教育強化策決定 (5)国民総動員運動始まる。
45	(9)家政学部第3類24名卒業	(6)戦災遺児保護対策要綱 (9)戦災孤児保護対策要綱実施 ⑩社会局復活 ⑫G・H・Q「救済並福祉計画の件」覚書指令、生活困窮者緊急生活援護要綱実施(閣議決定)	(8)ポツダム宣言受諾、無条件降伏

備考

- (1) 各事項の上についている算用数字は、月を示している。
(2) 一般事項は、一般史上主要と思われるもの、とくに社会問題に関連深い事件に力点をおいて記載した。その年の注目すべき傾向を示したものは・をつけた。

〔附〕 掲載したもの以外の資料リスト

(1) 「家庭週報」より

号	題 名	筆 者
1373	老人保護の問題と事業	石 山 清 子
1371	柴木三浦氏逝く	
1358～1359	社会事業研究会の集いで社会事業助成案のお話を聴く	
1387	社会事業研究会例会 社会事業学部・家政三類新旧出身者の交歓	
1371	柴木三浦様を悼む	横 山 弘 子
1371	柴木さんを葬送する	杉 本 文
1372	三浦様を偲びて	
1420	戸田教授・綿貫教授を中心に母校社会事業学部卒業生の集い	
1407	栃木女囚刑務所を訪う	
1420	大阪の乳幼児保護事業はここまで来た	本 多 チ エ
1472～1473	時局下にみる少年犯罪	大 平 エツ子
1448	・栃木刑務所見学記	3 類 3 年
1460	卒業を前に	3 類 阿 部
1463	生沽指導講習会を手伝う	3 類 3 年
1529	戦時下における児童問題	生 江 孝 之
1514	時局下の乳幼児母性保護の問題	斉 藤 文 夫
1517	女子労務者の厚生施設	池 田 君 枝
1524	女子の徴用	清 水 勝 子
1580～1584	工場女子勤労備員及び託児所に関する諸問題	池 田 きみ枝

多数の写真とアルバム、ノート、教科書、学部雑誌等を卒業生の方よりお送りいただきましたが、紙面の都合上、次にお名前を掲載いたしまして感謝にかえたいと思います。

池田きみ枝氏(37回生)、 亀長澄子氏(40回生)、 福富恵子氏(41回生)、 志磨陽子氏(41回生)、 梅林薫子氏(42回生)、 松田田鶴子氏(42回生)

なお、昨年次の方よりも資料を借用いたしました。どうもありがとうございました。

幸田早苗氏(22回生)、 大平エツ氏(23回生)、 神谷愛子氏(23回生)、 照沢淑扶氏(24回生)